

令和 8 （2026） 年度

特別支援教育・・・兵庫



兵庫県教育委員会

目 次

学校紹介

【視覚障害】

兵庫県立視覚特別支援学校	1
神戸市立盲学校	2

【聴覚障害】

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校	3
兵庫県立姫路聴覚特別支援学校	4

【知的障害】

神戸大学附属特別支援学校	5
兵庫県立西神戸高等特別支援学校	6
兵庫県立阪神特別支援学校 (分教室)	7
兵庫県立芦屋特別支援学校	8
兵庫県立こやの里特別支援学校	9
兵庫県立阪神昆陽特別支援学校	10
兵庫県立川西カリヨンの丘特別支援学校 (分教室)	11
兵庫県立高等特別支援学校	12
兵庫県立氷上特別支援学校	13
兵庫県立かがわ清流特別支援学校	14
兵庫県立いなみ野特別支援学校	15
兵庫県立東はりま特別支援学校	16
兵庫県立北はりま特別支援学校	17
兵庫県立姫路特別支援学校 (分教室)	18
兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校	19
兵庫県立赤穂特別支援学校	20
兵庫県立西はりま特別支援学校	21
兵庫県立出石特別支援学校 (みかた校)	22
神戸市立青陽灘高等支援学校	23
三木市立三木特別支援学校	24
小野市立小野特別支援学校	25
加西市立加西特別支援学校	26

【聴・知】

兵庫県立むこがわ特別支援学校	27
兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校	28
兵庫県立あわじ特別支援学校	29

【知・肢】

兵庫県立神戸特別支援学校	30
兵庫県立播磨特別支援学校	31
兵庫県立和田山特別支援学校	32
神戸市立青陽須磨支援学校	33
神戸市立いぶき明生支援学校	34
神戸市立灘さくら支援学校	35
丹波篠山市立ささやま支援学校	36

【肢体不自由】

尼崎市立あまよう特別支援学校	37
西宮市立西宮支援学校	38
伊丹市立伊丹特別支援学校	39
宝塚市立たからづか支援学校	40
川西市立川西養護学校	41
三田市立ひまわり特別支援学校	42
明石市立明石養護学校	43
加古川市立加古川養護学校	44

【知・病】

兵庫県立上野ヶ原特別支援学校 (ひかりの森分教室)	45
------------------------------	----

【肢・病】

姫路市立書写養護学校 (uluの木分教室)	46
--------------------------	----

【知・肢・病】

兵庫県立のじぎく特別支援学校 (おおぞら分教室)	47
神戸市立友生支援学校 (みなと分教室)	48

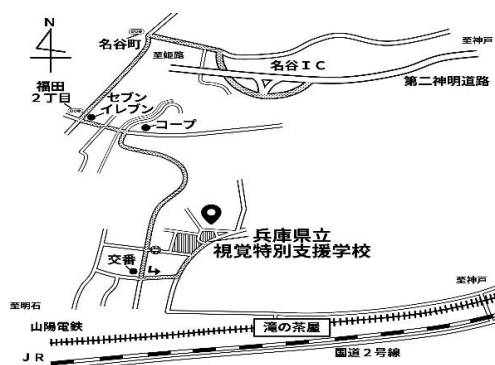
特別支援学校設置年表	49
特別支援学校設置状況図	50
関係機関等	51
心の教育推進センター特別支援教育相談・支援	52
表紙の作品について	53
<令和8年度>兵庫県内の特別支援学校一覧	



兵庫県立視覚特別支援学校

校長 橋本 文子
教頭 塚崎 典子
設置年度 大正 13 年
TEL (078) 751-3291
FAX (078) 751-3254
所在地 〒655-0884

E-mail kenritsu-svn@hyogo-c.ed.jp
交通機関 山陽電鉄「滝の茶屋駅」下車
 北西へ徒歩約 7 分



＜学級数・幼児児童生徒数＞

学 部	幼稚部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	1	5	6	11	23
人 数	1	9	14	26	50

＜地域別幼児児童生徒数＞（本校）

神戸市	14名	明石市	7名	姫路市	4名
宝塚市	1名	加古川市	1名	福崎町	1名
川西市	3名	高砂市	4名	赤穂市	1名
伊丹市	4名	加東市	2名	豊岡市	1名
西宮市	3名	多可町	1名		
芦屋市	2名	小野市	1名		

幼児児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

1 学期	入学式 生徒総会 校内弁論大会（中高） 授業公開運動会（幼小） スポーツ大会（中高） 職場実習（高理） 現場実習（高）
2 学期	進路講演会（高） 文化祭 強歩会（幼小） 学校説明会 神戸市立盲学校との交流（幼小） 修学旅行（高） 現場実習（高） 舞子高等学校との学習交流（高）
3 学期	カルタ会（中） よい子のつどい（幼） 学習発表会（高理） 現場実習（高） 送別会（中高） 卒業式
（他）	近畿盲学校体育・文化各種大会（弁論、野球、水泳、卓球、バレーボール、ゴールボール、音楽演劇） 東垂水小との交流 校外学習（幼小中高）

＜校章の由来＞

「兵庫（Hyogo）」の『H』と「盲学校」の『M』を変形した図を組み合わせたもので、今関秀夫初代校長が考案した。

＜校 訓＞ 独立 自主 創造

＜本校の特色＞

- ・一人一人の「生きる力」を培う。
- ・視覚障害教育におけるセンター校としての役割を果たす。
- ・教職員の専門性や指導力を高めるための研修に取り組む。
- ・保護者や地域住民・組織等との連携を深め、魅力ある学校づくりを行う。

【地域でのセンター的機能等】

全県内唯一の県立視覚特別支援学校として

【主な取組】

- ・弱視教育研修会、わくわくスクールを毎年開き、教育関係者や保護者への支援を使命と考え取り組んでいます。また、年間 3 回の授業公開を行っています。ホームページやポスター、チラシの案内でご確認ください。教育相談、就学相談、学校見学等について電話でお申込みください。
- ・巡回教育相談「アイ・あいスクール」を依頼のある市町で実施しています。現在は、宝塚市・西宮市・淡路市・姫路市・多可町・佐用町・三木市・小野市・豊岡市・新温泉町・香美町・養父市・西播磨地区で定期的に行っています。
- ・近隣の東垂水小学校との 40 年以上にわたる学校間交流や居住地校交流を推進しています。
- ・高等部本科保健医療科、高等部専攻科医療科、高等部専攻科保健医療科の生徒は、地域の方々を対象に、あん摩マッサージ指圧・鍼・灸の実習を行っています。

＜令和 7 年度の進路状況＞

【中学部： 3 名】

- ・本校高等部進学 3 名

【高等部： 11 名】

- ・大学進学 1 名 ・本校専攻科保健医療科 1 名
- ・一般就労 4 名 ・就労移行 1 名
- ・就労継続支援 B 型 4 名



校舎外観



神戸市立盲学校

校 長	古本 光男	設置学部	幼・小・中・高
教 頭	橋本 繁仁	対象障害	視覚障害
設置年度	昭和 14 年	高等部設置年度	昭和 23 年
T E L	(078) 360-1133	スクールバス	2 台
F A X	(078) 360-1136	寄 宿 舎	無
所在地	〒650-0044	隣接施設	無
	神戸市中央区東川崎町 1-4-2		
E- mail	mosh-se@kobe-c.ed.jp		
交通機関	JR「神戸駅」・市営地下鉄「ハーバーランド駅」 南側の陸橋を渡って右折 80m 駅から徒歩 5 分		



＜学級数・幼児児童生徒数＞

学 部	幼稚部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	0	2	2	6	10
人 数	0	3	3	6	12

幼児児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

- 1 学期 入学式 体育会 校外学習
- 2 学期 文化発表会 あんま交流会（理）
- 3 学期 卒業式 かるた会（中）など



＜校章の由来＞

『苦難を乗り越え世界にはばたけ！』

中央には神戸の市章、その両側には世界にはばたく翼、周囲の 6 点は点字を、その間の山は険しい六甲山を、それぞれ示している。

＜教育目標＞

- ① 感謝と思いやりの気持ちを持った、心豊かな人の育成
- ② 社会で豊かに生き抜くために必要な知識・態度・技能を身に付けた人の育成
- ③ 明確な目標を持ち、自分の可能性を高め挑戦する人の育成

＜めざす学校像＞

- ① 一人一人の障害の状況や特性を把握し、それぞれのニーズにあった教育をすすめる。
- ② 地域と連携し、さまざまな体験や経験を通して、生きた知識、技能を身につける。
- ③ 自立活動を積極的に行い、安全で健やかな生活の維持に努める。
- ④ 向上心と意欲を育て、互いの立場や心情を認め合える心豊かな人間性の育成を図る。
- ⑤ 一人一人の持てる力を伸ばし、学力、生活力と職業能力を養う。
- ⑥ 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の幼児児童生徒と交流の機会を多く持ち、幅広い社会性と自主性を養う。
- ⑦ 神戸市における視覚障害教育のセンター的機能を担う。通級による指導と教育相談を行うとともに、学校園への支援に努める。地域医療、福祉との連携をはかる。

＜本校の特色＞

- ① 幼稚部から高等部・専攻科まで一貫した教育を行っている。
- ② 高等部の本科には普通科と保健医療科、専攻科には保健医療科と理療科があり、専門教育を進めている。

【地域でのセンター的機能等】

神戸市域における、視覚障害を中心とした見え方全般に困り感を有する幼児児童生徒、およびその保護者と学校園に対して支援を行う「ひとみ教室」の設置

- ① 就学前の幼児、小・中・高等学校等に在籍する児童生徒を対象とした教育相談
- ② 視覚障害を有する幼児、および通常の学級に在籍する小・中学生を対象とした通級による指導
- ③ 教育相談や通級指導の対象となる幼児児童生徒の在籍校園に対する巡回相談・情報提供
- ④ 視覚障害を有する就学前の乳幼児を対象とした「あつまれ！ひとみキッズ」の実施
- ⑤ 市内の学校園に対する福祉体験授業や教職員研修等の講師派遣

＜令和 7 年度の進路状況＞

【高等部本科普通科】	0 名	
【高等部本科保健医療科】	0 名	
【高等部専攻科保健医療科】	5 名	
・一般就労：1 名	・福祉事業所：1 名	・その他：3 名
【高等部専攻科理療科】	2 名	・福祉事業所：2 名



兵庫県立神戸聴覚特別支援学校

校長	檜垣亜矢子	設置学部	保・幼・小・中・高
教頭	堀井 雅水	対象障害	聴覚障害
設置年度	昭和 6 年	スクールバス	無
TEL	(078) 709-9301	高等部設置年度	昭和 23 年
FAX	(078) 709-0371	寄宿舎	有
所在地	〒655-0013	隣接施設	無

神戸市垂水区福田 1-3-1

E-mail Kobe_chokaku@pref.hyogo.lg.jp

交通機関 JR「垂水駅」または山陽電車「山陽垂水駅」下車、山陽バス「垂水東口」より 11・12・13・23・57 系統に乗車「クラブ前」または「千鳥が丘下」下車、徒歩約 300m



＜学級数・幼児児童生徒数＞

学部	保育 相談部	幼稚部	小学部	中学部	高等部	合計
学級	3	4	7	4	7	25
人数	12	5	13	9	21	60

幼児児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜地域別幼児児童生徒数＞

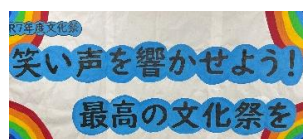
神戸市 36名	尼崎市 6名	明石市 10名
西宮市 2名	伊丹市 1名	宝塚市 1名
三木市 1名	三田市 2名	稲美町 1名

＜主な学校行事＞

1 学期	春の遠足(保・幼・小)	野外活動(小)
	校外学習(幼・高)	トライやる・ウィーク(中)
	職場体験実習(高)	進路講演会(中・高)
2 学期	秋の遠足(保・幼・小)	体育大会/文化祭(隔年)
	修学旅行(小・中)	校外学習(中)
3 学期	修学旅行(高)	総合発表会(中・高) 卒業式



校舎外観



文化祭スローガン

＜校章の由来＞

昭和28年、当時の石村校長の提案により、校旗と併せて校章を新しく作り直すことになりました。当時の京都市立美術大学に依頼し、神戸市章と波頭を取り入れたデザインとなっています。

＜校訓＞

自立 共生 前進

＜本校の特色＞

1 幼児児童生徒が将来への夢や希望をもつことができ、その実現に向けた取組を支援する教育活動の充実

本校では、アセスメントの徹底を図るため特別支援教育コーディネーターを各学部配置し、聴能機器や ICT 機器など本校の教育資源を活用して言語力、コミュニケーション能力の達成に努めます。平成 25 年度からは高等部にコミュニケーション・デザイン科を設置しています。

2 聴覚特別支援教育のセンター的機能を生かし、校内外の支援に努める学校

「総合支援センター」を中心として校外支援の充実を図り、県内聴覚障害教育のセンター校として教育相談や通級指導、難聴学級担当者の研修などを進めていきます。

3 生命を尊び、自他を尊重する態度や感性、豊かな心や人間性の育成

防災教育や食育をはじめとする「いのちの教育」の充実を図り、生命の尊厳について学びます。

【地域でのセンター的機能等】

- ・教育相談(0歳～)、進学相談、学校見学は随時受付
- ・授業体験DAY(6月)
- ・オープンスクール(9月)
- ・学校説明会(幼小中:7月、保高:11月)
- ・通級指導(巡回指導、本校での指導、ICTを活用した遠隔による指導、サマースクール、保護者研修会等)
- ・難聴学級や通級児童生徒の在籍学級担任等を対象にした聴覚障害教育に関する研修会
- ・地域の学校の依頼に応じた福祉教育や聴覚障害理解の啓発活動

＜令和 7 年度の進学状況＞

【中学部】	本校高等部進学 2名
【高等部】	企業就労 4名



創立 90 周年マスコットキャラクター 令和 3 年 11 月 17 日誕生

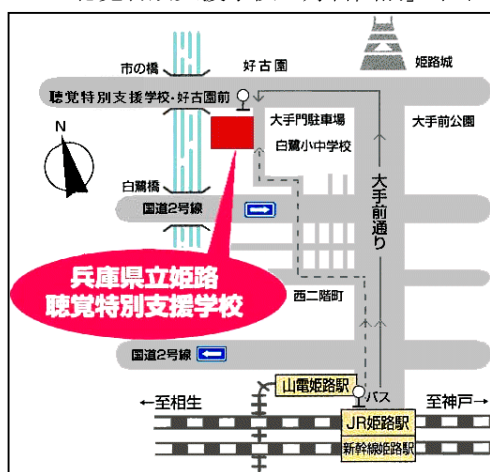


兵庫県立姫路聴覚特別支援学校

校長	佐野 美穂	設置学部	保・幼・小・中・高
教頭	宇都宮 ますみ	対象障害	聴覚障害
設置年度	昭和 23 年	高等部設置年度	昭和 25 年
TEL	(079) 284-0331	スクールバス	無
FAX	(079) 222-5237	寄宿舎	有
所在地	〒670-0012	隣接施設	無

姫路市本町 68 番地 46

E-mail Himeji-shn@hyogo-c.ed.jp
 交通機関 JR・山陽電鉄「姫路駅」下車
 神姫バス姫路西高行（5分）
 「聴覚特別支援学校・好古園前」下車



<学級数・幼児児童生徒数>

学部	保育 相談部	幼稚園	小学部	中学部	高等部	合計
学級	3	4	9	8	6	30
人数	6	12	26	22	17	83

<地域別幼児児童生徒数>

播磨西管内	42名	播磨東管内	30名
神戸・阪神管内	7名	但馬管内	1名
県内その他	3名		

幼児児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

<主な学校行事>

1 学期	入学式 歓迎行事（小・中・高）遠足（保・幼） 体育大会 自然体験学習（小）進路懇談会（高） 一日体験入学（小・中）わく・ワーク体験（中） 就業体験（高） ＜夏季休業中＞ オープンハイスクール（高）
2 学期	一日体験入学（小・中）秋の遠足（保・幼） 自然体験活動（中）修学旅行（高） 文化祭 校外学習 マラソン大会 クリスマス会
3 学期	卒業式（保・幼・小・中・高）

<校章の由来>

幸せを呼ぶと言われる青い鳥をイメージし、幼児児童生徒のすこやかな成長を願っている。

<校訓> 正 強 敬

正しく、強く生きること、人や自然を敬うようにとの願いがこめられています。

<本校の特色>

- ・幼児児童生徒一人一人の多様な実態に応じ、手話や音声認識ソフト等による情報保障や視覚支援ツールの活用、聴覚口話や音環境の配慮等必要な教育的支援を行い、確かな学力を育成しています。
- ・多様なコミュニケーション手段の活用により言語活動の充実を図り、思考・判断し、適切に表現する力を育成しています。
- ・異なる学部や学年が協力しながら学校生活を送っています。

【地域でのセンター的機能等】

- 教育相談
 - * 難聴と診断された乳幼児とその保護者に対して指導・支援を行っています。
 - * 学齢期の聞こえやことばの発達について相談・支援を行っています。
- 通級による指導
 - * 対象は地域の小・中学校の通常の学級に在籍している聴覚に障害のある小・中学生です。
- 交流活動
 - * 「一日体験入学（年 2 回）」地域の難聴児童生徒が本校の教育を体験する場を設定しています。
 - * 「オープンハイスクール」高等部を体験する日を夏季休業中に設けています。
 - * 学校間交流や居住地交流を実施しています。
- 研修・啓発活動
 - * 地域の小・中学校の聴覚特別支援教育担当教員の研修会等を開催しています。
 - * 要請があれば地域の幼稚園や保育所、小・中・高等学校での聴覚障害について理解を促すための研修や授業を行います。

<令和 7 年度の進路状況>

【幼稚園】	6 名	・内部進学	6 名
【小学部】	3 名	・内部進学	3 名
【中学部】	7 名	・内部進学	6 名
【高等部】	5 名	・一般就労	3 名
		・進学	1 名（大学）
		・福祉就労	1 名
		・在宅その他	0 名



高等部 和太鼓「木やり」



幼稚園 劇「あかずきん」

文化祭（令和 7 年 11 月 22 日）



神戸大学附属特別支援学校

校長	佐藤 知子	設置学部	小・中・高
副校長	殿垣 亮子	対象障害	知的障害
設置年度	昭和 44 年	スクールバス	1 台
高等部設置年度	昭和 45 年	寄 宿 舎	無
TEL	(078)936-5683	隣接施設	無
FAX	(078)936-7114		
所在地	〒674-0051 明石市大久保町大窪 2752-4		
E-mail	kuspe-yougo@edu.kobe-u.ac.jp		
交通機関	JR「大久保駅」下車 神姫バス「養護学校前」下車		



＜学級数・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	3	2	3	8
人 数	15	15	19	49

＜地域別児童生徒数＞

神戸市 17 名 明石市 17 名 加古郡 6 名
加古川市 8 名 三木市 1 名

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

- | | |
|------|--|
| 1 学期 | 修学旅行（高 3）校外学習（小/中/高）
校内合宿（中/高）全校生の集い プール学習
進路：施設教育実習（高 3）同窓会 |
| 2 学期 | 運動会 校外学習（小/中/高）
デイキャンプ（小）秋季合宿（中/高）
進路：施設実習（高 2、高 3） |
| 3 学期 | 学習発表会 成人祝賀会
おわかれ遠足（小/中/高） 同窓会 |

＜教育目標＞

- ① 児童・生徒一人ひとりの心身の発達と障害、生活、環境を相互に関連づけて捉え、人格形成を進める。
- ② 教師の専心専念な関わりを教育の基盤とし、身体と情動を媒介とした他者との関係の中で、自己の存在が受け止められているという実感を育む。
- ③ 芸術や表現、身体活動などの文化を子どもの実態に応じて再構築し、学校文化として創造することを通して、他者とともに学び、自他の理解を進めながら、自分の考えや意思をもって社会と関わっていく力を育む。

＜本校の特色＞

12 年間の一貫教育のなかで、基礎学力、自己選択・自己決定する力、仲間と協働する自治の力などを培い、子どもたちが人間らしく豊かに育ち合うことを目標に教育実践を行う。神戸大学の附属校として、人間の発達と障害に関する研究・教育に協力・参加し、共同して教育実習、介護等体験、および教育実践・研究を推進する。

【地域でのセンター的機能等】

- 神戸大学特別支援教育発達研究センターを置き、地域における相談活動、教職員研修、研究会等を行う。
 - ・個別の子育て・教育相談の実施
 - ・親子幼児教室「たんぽぽ教室」年 6 回（土曜日）
 - ・生涯学習プログラム「ポランの広場」年 6 回（土曜日）
 - ・「特別支援教育実践ワークショップ」（不定期）
- 特別支援教育研究協議会の開催
- 福祉避難所

＜令和 7 年度の進路状況＞

- | |
|---------------------------------|
| 【中学部】 5 名 |
| ・本校高等部進学 4 名 他校高等部進学 1 名 |
| 【高等部】 5 名 |
| ・自立訓練（生活訓練）事業所 2 名 |
| ・生活介護事業所 1 名 ・就労継続支援 B 型事業所 1 名 |
| ・就労 1 名 |





兵庫県立西神戸高等特別支援学校

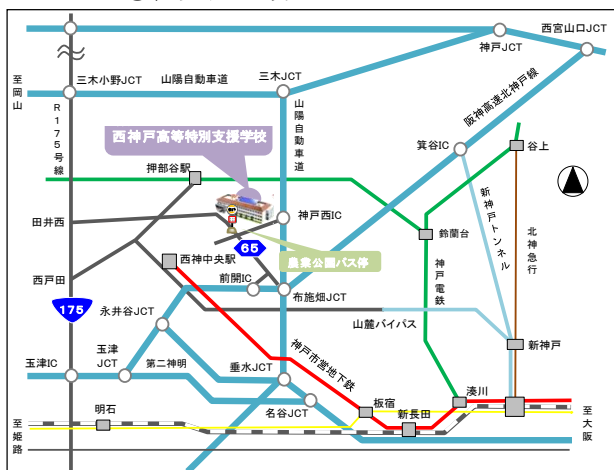
校 長	坂野 暢則	設置学部	高
教 頭	式部 義信	対象障害	知的障害
設置年度	平成 29 年	スクールバス	無
所在地	〒651-2204	寄宿舎	無

神戸市西区押部谷町高和 1557-1

TEL (078) 991-2050 FAX (078) 991-5505

E-mail Nskobe_shien@pref.hyogo.lg.jp

- 交通機関
- ①神戸市営地下鉄「西神中央駅」下車
 - ②神姫バス 10 番のりばから、80・81 系統に乗車、「農業公園」下車
 - ③神姫バス 11 番のりばから 20 系統に乗車、「農業公園」下車
 - ④徒歩約 15 分



<学級数・生徒数>

学 年	1 年生	2 年生	3 年生	合 計
学級数	6	6	6	18
人 数	48	48	48	144

<地域別生徒数>

神戸市	96名	明石市	24名
三木市	7名	加古川市	7名
播磨町	1名	高砂市	1名
稲美町	2名	加東市	1名

生徒数は令和8年5月1日現在

<校章の由来>

西神戸 (WEST KOBE) の頭文字を中心に、こうべアグリパークの主産物である葡萄を配している。葡萄の房は校訓の一つである慈愛を表しており、生徒が協力し手を携えて成長していく姿を表している。

<校 訓>

- ・探求 Thinking 「考え抜く力」
周囲の状況を把握し現状を分析して、課題解決のために、何を為すべきかを主体的に考える力や習慣を身につける。
- ・行動 Action 「前に踏み出す力」
目的を達成するために、正しい判断力を身につけ、常に一歩前に踏み出して積極的に行動する。
- ・慈愛 Affection 「思いやりの心」
自らを愛し命を大切にするとともに、家族や仲間、自然を慈しみ、互いに支え合い思いやることにより自己ともの幸せを目指す。

<本校の特色>

「自立して生きる力を育むために主体的に考え動ける人づくり」を教育目標としています。職業自立をめざして、「メンテナンス・物流」「ものづくり・販売」「福祉・サービス」の専門学習 3 コースを中心に、農園芸、受託作業等の実習を中心とした学習に取り組みます。また、社会自立をめざして、IT (情報)、ビジネスマナー、国語、数学、社会教養 (社会・理科・英語等) など実生活に即した学習にも取り組みます。卒業後に必要な一般教養やコミュニケーション力を育成し、職業自立・社会参加につながるよう 3 年間しっかりとサポートしていきます。

【地域でのセンター的機能等】

- 1 特別支援教育の充実をめざして、地域の小中高等学校に対して理解啓発や情報提供を行い支援します。
- 2 医療・労働など関係機関と連携を図り、個々の生徒の教育的ニーズに応じた支援を行います。
- 3 神戸西部地域の特別支援学校との連携及び関係構築を図ります。

<主な学校行事>

前期	入学式
後期	スポーツ祭 西神戸祭 社会体験活動
1 年	トライやる・JOB
2 年	職業体験実習
3 年	現場実習

<令和7年度の進路状況>

【高等部】	48名
・企業就労	41名
・訓練校	2名
・その他	5名



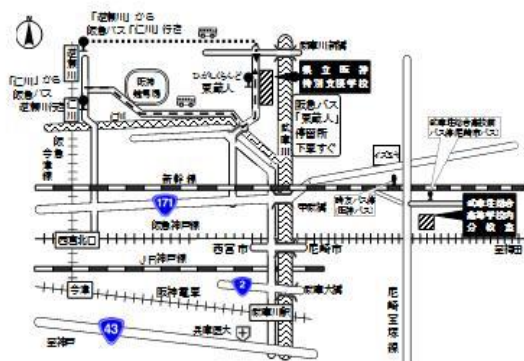
「ニャー」

西神戸高等特別支援学校
キャラクター



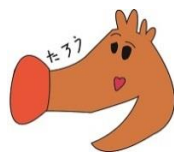
兵庫県立阪神特別支援学校

校長	榎本 好子	設置学部	小・中・高
教頭	上条 佳伸	対象障害	知的障害
	齊藤 栄一		
	松下 純子	スクールバス	9 台
設置年度	昭和 40 年	高等部設置年度	昭和 50 年
TEL	(0798) 52-6868	寄宿舎	無
FAX	(0798) 52-6176	隣接施設	無
所在地	〒663-8001 西宮市田近野町 11-7		
E-mail	Hanshin_shien@pref.hyogo.lg.jp		
交通機関	阪急電鉄「仁川駅」・「逆瀬川駅」から 阪急バス「東蔵人」停留所下車すぐ		



分教室	平成 27 年度開設
所在地	〒661-0035 尼崎市武庫之荘 8-31-1 県立武庫荘総合高等学校内

TEL	(06) 6431-6050
FAX	(06) 6431-6556



阪神特別支援学校分教室
マスコットキャラクター
「分教たろう」

＜学級・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部 (分教室)	訪問部	合 計
学級数	31	23	36(6)	0	90(6)
人 数	125	93	181(44)	0	399(44)

＜地域別児童生徒数＞ 尼崎市 393(41) 名 西宮市 6(3) 名

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在 () は分教室人数を内数で表示

＜令和 7 年度の進路状況＞

【中学部】 35名（訪問部0名）

- ・本校高等部進学 34 名（訪問部 0 名）
- ・その他 1 名

【高等部】 67名（訪問部 1 名）

- ・企業就労 5 名 ・職業訓練校 1 名
- ・自立訓練(生活)事業所 9 名 ・就労移行支援 3 名
- ・就労継続支援A型 0 名 ・就労継続支援B型 24 名
- ・生活介護 19 名（訪問部 1 名）
- ・その他 6 名

【分教室】 16 名

- ・企業就労 6 名 ・就労継続支援A型 2 名 ・就労継続支援B型 2 名
- ・自立訓練 4 名 ・その他 2 名

＜校章の由来＞

阪神特別支援学校の頭文字「H」をモチーフに、人と人とが手をつなぐ交流のイメージをデザインしています。基調色はオレンジで、「情熱」「快活」「成長」「元氣」を表現している。

＜校 訓＞ 明るく たくましく 心ゆたかに 活気ある学校

＜本校の特色＞

- ・一人一人の多様な教育的ニーズに応じた教育の充実
- ・自立と社会参加を見据えたキャリア教育及び進路指導の充実
- ・発達段階に応じた人権教育の推進
- ・生徒指導(生活指導)体制の構築
- ・教職員の専門性及び授業力の向上
- ・信頼される学校づくり・地域とともに歩む学校づくりの推進
- ・地域（尼崎市）との連携強化
- ・交流及び共同学習の推進
- ・分教室における教育内容の充実
- ・地域における特別支援教育のセンター的機能の充実

【キャリア教育及び進路指導の充実】

小・中・高等部一貫した進路指導体制の下、一人一人の障害の状態や発達段階に応じた指導計画に基づき、教育活動全体を通してキャリア教育を推進しています。

ほんとうマン！！



阪神特別支援学校
マスコットキャラクター
「ほんとうマン！！」

【交流及び共同学習の推進】

小・中学部では、希望者を対象に「居住地校交流」を実施するとともに、高等部では、県立武庫荘総合高等学校をはじめ、尼崎市内の県立高校と交流及び共同学習を進めることで障害のある児童生徒に対する理解啓発を図っています。



自然体験活動・しあわせの村

【分教室の教育内容の充実】

県立武庫荘総合高等学校との交流及び共同学習、地域での貢献活動に力を入れ、社会自立・職業自立に向けて教育内容の充実を進めています。



出張喫茶・TARO COFFEE(分教室)

【地域でのセンター的機能等】

支援を要する尼崎市内の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の幼児・児童・生徒及び保護者、教員等を対象に、教育相談や巡回相談を実施しています。

＜主な学校行事＞

1 学期	体育大会	現場実習（高）	宿泊学習（小）
2 学期	自然体験活動（中）	宿泊学習（高）	修学旅行（小中高）
3 学期	体力づくり参観（中）	現場実習（高）	学習発表会



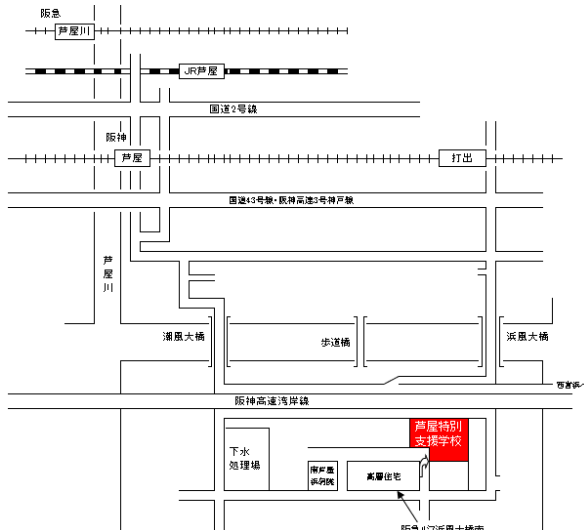
兵庫県立芦屋特別支援学校

校長 田邊 勝彦
教頭 吉岡 知子
眞下 英彦

設置年度 平成 22 年
TEL (0797)25-5311
FAX (0797)25-5322
所在地 〒659-0034

E-mail ashiya-sn@hyogo-c.ed.jp

交通機関 阪急芦屋川駅・JR 芦屋・阪神芦屋の各駅から
阪急バス(101 系統・106 系統・111 系統)に乗り、
「浜風大橋南バス停」下車、徒歩北へ 3 分



＜学級数・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	15	11	23	49
人 数	51	41	104	196

＜地域別児童生徒数＞

芦屋市 67名 西宮市 74名 神戸市 55名

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

- | | |
|------|--|
| 1 学期 | 学部運動会(小・中) 遠足 懇談(前期)・家庭訪問
現場体験実習・校内実習(高) 学校見学会(小・中) |
| 2 学期 | 懇談(前期) 修学旅行(小・中・高) 宿泊学習(小・高)
自然体験活動(中) 現場体験実習・校内実習(高)
オープンスクール(小・中・高) 体験入学(高)
学習発表会・作品展 |
| 3 学期 | 懇談(後期) 総合防災訓練 |

＜校章の由来＞

「a」は芦屋特別支援学校の頭文字 A の小文字であると同時に種から芽が出て伸びていく様子を表現している。「～」は波(=海)を表現している。

純粹さ、清潔感を表す白をバックに、南芦屋浜の海と空の青、六甲山やグラウンドの芝生、植栽の緑を表している。

＜校 訓＞

あかるく やさしく たくましく

＜本校の特色＞

- ・一人一人に応じた指導・支援の充実に努め、ライフサイクルを見通した学習や進路指導により自立と社会参加を目指します。
- ・関係諸機関との連携のもとに、知的障害教育のセンター的機能を発揮し、地域の学校への支援や交流、地域との交流を行い、地域に開かれた学校づくりを進めます。

【地域でのセンター的機能等】

【教育相談・巡回相談機能】発達等で気になる子ども及びその保護者、教員を対象に電話、来校型の教育相談や要請を受け教員の支援方法について幼保・小・中・高校等に巡回相談を行っています。

【講師派遣・高校通級】検査器具貸し出し、通常の学校のコーディネーター会や各学校の職員研修会企画や講師派遣を行っています。西宮甲山高校・東灘高校の協力校と連携して高校通級指導実践事業をサポートしています。

【他機関との連携】福祉施設や地域の総合相談センター(福祉)、特別支援教育センター(教育・療育)、自立支援協議会等にも参加し、関係機関と密に連携し、校内外支援の充実に取り組んでいます。

【交流及び共同学習】

小・中学部は児童生徒の希望者を対象に居住地校交流、地域の学校と学校間交流、高等部は 2 校の高校と学校間交流・共同学習を行っています。ペア校である県立西宮高校とは、本校希望者を募って冬季文化祭や授業等の交流及び共同学習を展開しています。

＜令和 7 年度の進路状況＞

【中学部】21名 ・高等部進学 21名 (本校18名)

【高等部】75名

・企業就労	3 名	・自立訓練(生活)事業所	7 名
・就労継続支援 A 型	0 名	・生活介護	16 名
・就労移行支援	2 名	・施設入所	1 名
・就労継続支援 B 型	40 名	・専門学校	0 名
・職業訓練校	5 名	・在宅その他	1 名

～県立西宮高校との共同学習～



～中学部 運動会～



兵庫県立こやの里特別支援学校

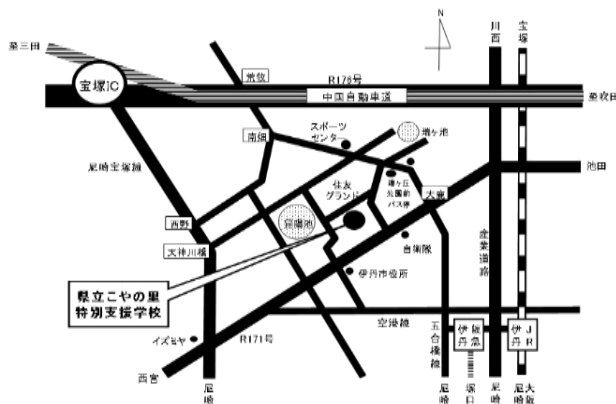
校長 只石 和世
教頭 中川 圭子
山下 大樹

設置年度 昭和53年
所在地 〒664-0017

T E L (072) 777-6300
F A X (072) 777-6301

E-mail koyanosato-shien@pref.hyogo.lg.jp
交通機関 阪急電鉄「伊丹駅」又はJR「伊丹駅」下車
伊丹市バス「荒牧バラ公園行き」(2系統)
「瑞ヶ丘公園前」下車約200m

設置学部 小・中・高
対象障害 知的障害
スクールバス 11台
寄宿舎 無
高等部設置年度 昭和55年
隣接施設 無



＜学級数・児童生徒数＞()は在宅訪問(内数)

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	39	27	30	96
人 数	147	109	130(1)	386(1)

＜地域別児童生徒数＞

伊丹市 172(1)名 宝塚市 193名 川西市 7名
西宮市 13名 その他 1名

児童生徒数は令和8年5月1日現在

＜主な学校行事＞

1 学期	入学式 火災避難訓練 宿泊学習(小・高) 現場実習(高3)	水害時避難訓練 校外学習 進路学習Week(高2)
2 学期	修学旅行(小・中・高) 校内実習(高1) マラソン大会	こやの里フェスティバル 現場実習(高2) 自然体験活動(中)
3 学期	地震避難訓練 卒業式	作品展

＜校章の由来＞

本校の校章は、昆陽池を優雅に泳ぐ白鳥をイメージしています。児童生徒が白鳥のように優雅に、そして校訓で表現されている「やさしい心 元気なからだ つよい絆」の精神で心豊かにのびやかに成長していく願いを表しています。

＜校 訓＞

やさしい心 元気なからだ つよい絆

＜本校の特色＞

- ・学校と家庭・地域・福祉との多様な連携
- ・社会的自立と自己実現に向けたキャリア教育の実践
- ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用による学校と家庭との情報共有

【地域でのセンター的機能等】

1 教育相談

本校通学区区域在住の幼児・児童・生徒等に関する来校型相談を実施しています。心身の発達、生活面や学習面、行動面等の気になることについて支援部コーディネーターが中心になって対応しています。

電話で本校教頭までお申込みください。

2 巡回相談

本校通学区区域にある学校園在籍の幼児・児童・生徒について、指導上気になること、困っていることについての学校園への訪問相談を行っています。各市町教育委員会を通して受付しています。

【交流及び共同学習】

小・中学部では、希望する児童・生徒を対象に、副籍校との居住地校交流をしています。また、小学部と伊丹市立瑞穂小学校、中学部と伊丹市立東中学校との間で、学校間交流を実施しています。

高等部では、県立宝塚東高等学校や伊丹市立特別支援学校、県立川西明峰高等学校との学年単位での交流を行い、交流及び共同学習を推進しています。

＜令和7年度の進路状況＞

【中学部】31名卒業 ・高等部進学30名(他校1名)

【高等部】64名(うち分教室15名)

- ・一般就労 8名(5)
- ・職業能力開発校 2名(1)
- ・就労移行支援 4名(1)
- ・就労継続支援A型 3名(1)
- ・自立訓練他 2名(1)
- ・就労継続支援B型 22名(6)
- ・在宅 3名(0)
- ・生活介護 20名(0)

学校の様子

図工(小学部)



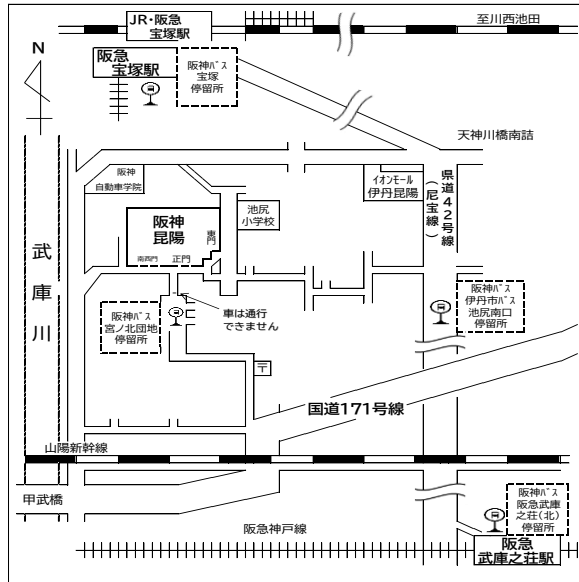
体育(高等部)





兵庫県立阪神昆陽特別支援学校

校 長	桑田 耕治	設置学部	高
副校長	高越 美智子	対象障害	知的障害
教 頭	西原 宏昭	スクールバス	無
設置年度	平成 24 年	寄 宿 舎	無
T E L	(072) 773-5135	併設施設	兵庫県立阪神昆陽
F A X	(072) 777-1877		高等学校
所在地	〒664-0027 伊丹市池尻 7 丁目 108 番地		
E-mail	hanshinkoya-sn@hyogo-c.ed.jp		
交通機関	阪急「武庫之荘駅」より阪神バス「宮ノ北団地」下車。JR・阪急「宝塚駅」より阪神バス「池尻南口」下車。JR・阪急「伊丹駅」より伊丹市バス「池尻南口」下車		



＜高等部学級数・生徒数＞

学 年	1 年 生	2 年 生	3 年 生	合 計
学級数	6	6	6	18
人 数	48	45	45	138

＜地域別生徒数＞

神戸市10名 尼崎市28名 西宮市42名 芦屋市 3 名
伊丹市29名 宝塚市22名 川西市 4 名

生徒数は令和8年5月1日現在

＜主な学校行事＞

前期 入学式 校内実習 職業体験週間 生活体験発表大会
後期 こやっこフェスティバル(体育祭・文化祭) 生活自立学習
職業体験週間 芸術鑑賞会 修学旅行 卒業式

校内生活体験発表大会 (阪神昆陽高校と合同)



＜令和7年度の進路状況＞

【高等部】	46名
・企業就職	32名
・訓練校	3 名
・就労移行支援	1 名
・その他	10名

＜校章の由来＞

特別支援学校と高等学校の2つの学校が同一敷地内に設置されることから、阪神 (H) と昆陽 (K) の頭文字をつなげて2字 (2 校) を1字 (1 校) のように表現しており、両校は同一の校章を用いている。背景として描かれている川は3色に塗り分けられ、これらは左から、六甲山の緑、武庫川の青色、河川敷の桜並木の桜色をそれぞれ表している。また、同一敷地内に設置された特別支援学校と高等学校の生徒が交流及び共同学習を行うことにより、豊かな人間性を育み成長していくこともイメージしている。

＜校 訓＞ 日常実践

＜本校の特色＞

- 知的障害のある生徒が、主体的に生活を営むことができる力を身につけ、自己肯定感や自己効力感を高め、社会的・職業的自立に必要な能力を伸ばすことができる学校をめざします。
- 職業科の高等部単独設置校で、企業就労をめざした職業教育を主とした教育課程を編成する特別支援学校です。
- 各教科、道徳、自立活動等を総合的に合わせた指導として、「職業生活単元学習」を設定し、基礎分野、技能分野、充実分野の3つの分野に分けて学習します。
- 職業に関する専門教科として、①流通・サービスコース、②食品加工・農園芸コース、③福祉・介護コースの3つのコースを設置します。
- 学期は、前期(4～9月)、後期(10～3月)の二学期制です。

【交流及び共同学習】

- 併設の阪神昆陽高等学校の生徒との交流及び共同学習
音楽・美術・体育・情報などの教科を第1学年の生徒が共に学び、国語・数学・英語・社会・理科などの高等学校の教科を第2、3学年の生徒が希望で学ぶことができます。
- 日常生活の中や学校行事等での交流及び共同学習
体育祭や文化祭、部活動などを合同で行い、両校の生徒の交流を図ります。
- 「共同の学び」での交流及び共同学習
・タイプA: すべての生徒が年間を通して交流及び共同学習を行う形態 (第1学年)
・タイプB: 特別支援学校の生徒が高等学校の教科・科目を希望して学ぶ形態 (第2学年、第3学年)
・タイプC: 高等学校の生徒が特別支援学校の教科等を希望して学ぶ形態
・タイプD: 近隣の高等学校と連携し、その学校の施設・設備を利用して両校の希望する生徒が学ぶ形態

【地域でのセンター的機能等】

- 地域の小・中学校だけでなく、阪神昆陽高等学校に在籍する特別な支援を要する生徒に対しての助言・相談の他、個別の指導計画の作成に当たっての支援を行っています。
- 高等学校に対しても、特別支援教育の見地に立った支援や助言を機能的に行うことができるよう柔軟に対応できる連携システムを構築しています。
- 近隣の特別支援学校や各市の福祉行政機関、労働行政機関、社会福祉協議会、社会福祉法人等のネットワークを構築・整備するとともに、職業科設置の特色を活かして、阪神間における障害者雇用と後期中等教育の緊密な連携活動を展開しています。



兵庫県立川西カリヨンの丘特別支援学校

校長	堀井 美佐	設置学部	小・中・高
教頭	福井 健二	対象障害	知的障害
(分教室)	今井 成幸	スクールバス	7台
設置年度	令和6年	寄宿舎	無
TEL	(072) 769-6888		
FAX	(072) 795-1888		
所在地	〒666-0152 川西市丸山台3丁目4番1号		
E-mail	Carillon_shien@pref.hyogo.lg.jp		
交通機関	能勢電鉄「日生中央駅」より 阪急バス 63 系統「伏見台配水池前経由 伏見池公園前→丸山台3丁目方面」行き 「カリヨンの丘」下車徒歩3分		



分教室	
設置年度	令和6年度開設
TEL	(072) 765-3255
FAX	(072) 765-3265
所在地	〒666-0223 川辺郡猪名川町紫合新林4-4 (兵庫県立猪名川高等学校内)
交通機関	阪急バス「猪名川高校前」下車すぐ

<学級数・児童生徒数>

学 部	小学部	中学部	高等部	分教室	合 計
学級数	14	12	10	6	42
人 数	62	40	49	36	187

<地域別児童生徒数>

本校	川西市 116名	猪名川町 35名
分教室	川西市 14名	猪名川町 6名 伊丹市 3名
	宝塚市 12名	西宮市 1名

児童生徒数は令和8年5月1日現在

<主な学校行事>

前 期	入学式 校外学習(小・中・高・分) 現場・施設実習(高、分2・3) 校内実習(高1、分1)	運動会 交流体育祭(分) 宿泊学習(小)
後 期	宿泊学習(中・高・分) わくわくオーケストラ(中) 職場見学(高1) 校外学習(小・中・高・分) 学習発表会 卒業式	修学旅行(小・中・高・分) 交流文化祭(分) 地震避難訓練 現場・施設実習(高) 一斉現場体験実習(分)

<校名の由来>

「カリヨン」は幸せを呼ぶ平和の鐘といわれ、この地域の土地開発時、地域の平和を祈り、この近くを「カリヨンの丘」と名付けられました。平和のイメージが、「互いに認め合い、支え合う温かい学校」をめざす教育に合うこと、また地域にゆかりのある名称で、末永く愛される学校になるよう願いを込めて「川西カリヨンの丘特別支援学校」としました。

<校章の由来>

中心は川西のKを示し、平和の象徴であるカリヨンのCを、草木のように伸び伸びと育ってほしいと願いを込めてリーフを連ねて表しています。パズルが繋がっているKはお互いを認めて支えあって成長する姿であり、誰一人欠けてはいけないという個人の尊重を表現しています。

<校 訓>

かけがえのない一人 温かい集団 つながりあう社会

<本校の特色>

学校教育目標を「児童生徒一人一人の個性を尊重し、互いに認め合う温かい学校」とするとともに、「カリヨン」の語源が4つの組み鐘を意味するラテン語であることから、4つの希望を掲げています。

- 子どもの笑顔があふれる学校
- 保護者が毎朝、安心して送り出せる学校
- 教職員が自己成長を実感できる学校
- 地域の人の輪が広がる学校

【地域でのセンター的機能等】

- ・一人一人の教育的ニーズを把握し、きめ細かく適切な教育支援を行うことを理念とし、学校園等教育機関の連携を図り、電話相談、来校相談、巡回相談等を実施します。
- ・地域の学校園への職員研修会、理解啓発や情報発信を行います。

【交流及び共同学習】

小・中学部では、副籍を活用した居住地校交流を組織的に計画するとともに、高等部も含めて、近隣校との学校間交流の充実を図り、地域社会の一員として生きる力を育みます。分教室では、同一敷地内の県立猪名川高等学校との間で、行事や授業において、交流及び共同学習を推進しています。また、高等部と分教室で喫茶ルームの共同運営に取り組み、地域との交流活動を行っています。

学校の様子



本校：中学部修学旅行



分教室：交流体育祭

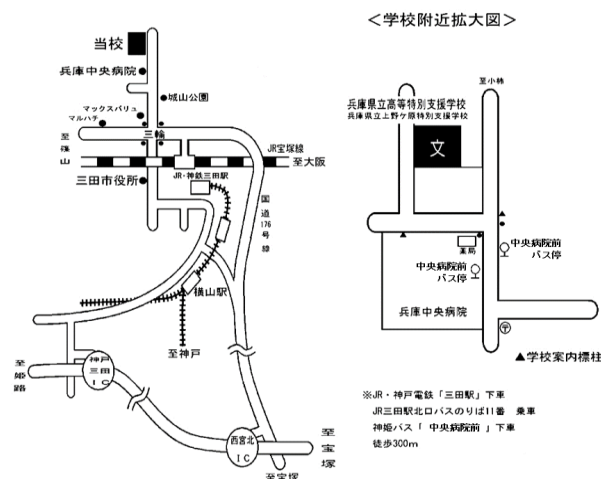
<令和7年度進路状況>(本校) ※分教室はこやの里籍
就労 1名 就労支援B型 3名 生活介護 2名



兵庫県立高等特別支援学校

校長	竹内 雅彦	設置学部	高
筆頭教頭	後藤 聡子	対象障害	知的障害
教頭	藤本 寿雄		
設置年度	平成 8 年	高等部設置年度	平成 8 年
TEL	(079)563-0689	スクールバス	無
FAX	(079)563-5632		
所在地	〒669-1515 三田市大原梅の木 1546-6		
寄宿舎	有 (定員 48 名 男 32 名・女 16 名)		
隣接施設	無		
E-mail	Koto_shien@pref.hyogo.lg.jp		
交通機関	JR・神戸電鉄「三田駅」下車 神姫バス「兵庫中央病院前」下車徒歩 300m		

学校所在地経路略図



＜学校附近拡大図＞

＜学級数・生徒数＞

学 部	高等部	合 計
学級数	15	15
人 数	111	111

＜地域別生徒数＞

神戸	36名	阪 神	36名	播磨東	25名
播磨西	4名	但 馬	5名	丹 波	4名
淡 路	1名				

生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

- | | | | |
|------|-------------|--------|---------------|
| 1 学期 | 宿泊訓練 (1 年) | 春季校外学習 | 校内・現場実習 |
| | 新入生歓迎スポーツ大会 | | |
| 2 学期 | 修学旅行 (3 年) | 体育大会 | 現場実習 文化鑑賞会 |
| | 進路セミナー | 秋季校外学習 | 冬季スポーツ大会 |
| 3 学期 | 文化祭 | マラソン大会 | 内定実習 春季スポーツ大会 |

＜校章の由来＞

- 1 YOUGOの文字をデザインした。
- 2 県立初の高等養護学校ということで「高」を強調した。
- 3 厳しい社会に胸を張って生き、豊かな人間として成長していく様子を「高」の字に人が大きく手を広げている形で表現した。
- 4 殻を破り大きく成長してほしいとの願いをこめた。
- 5 三田市に立地することから市章のイメージを盛り込んだ。

＜校 訓＞

意欲・根気・自立



校訓碑

＜本校の特色＞

知的障害生徒を対象として、職業自立に必要な知識・技能・習慣、社会性を育てることを目標に、生徒一人一人の発達と障害に応じた指導の充実を図り、個性、能力を最大限に伸ばすことを目指しています。卒業生は、毎年高い就職率を維持し、さらに、企業訪問など卒業後の手厚いアフターフォローにより「働き続ける」を実現しています。

兵庫県内全域を学区とし、遠方から通学する生徒には寄宿舎があります。

【地域でのセンター的機能、学校見学】

- 1 三田市教育委員会との連携により主に市内小中学校に対し、支援を必要とする児童生徒のコンサルテーションや講師派遣を行っています。(巡回相談、自立活動研修、公開研修講座等)
- 2 平成 30 年度より始まった「高等学校における通級による指導」において、県立篠山産業高等学校の協力校としてサポートしています。
- 3 令和 8 年 4 月～令和 9 年 1 月に、11 回の学校見学を実施予定。9 月までは中学 3 年生の参加者を優先しますが、定員に余裕がある時と 10 月以降は、学年を問わず、一般の方も参加できます。詳しくはホームページをご覧ください。

＜令和 7 年度の進路状況＞

【高等部】39名

- ・企業就労 30名 ・福祉就労 (A型事業所 5名・B型事業所 1名)
- ・進 学 2名 ・その他 1名



職業実習



通用門と寄宿舎



文化祭



兵庫県立氷上特別支援学校

校 長	西岡 美智子	設置学部	小・中・高
教 頭	原田 哲也	対象障害	知的障害
設置年度	昭和54年	高等部設置年度	昭和61年
TEL	(0795) 75-1737	スクールバス	4 台
FAX	(0795) 75-1738	寄 宿 舎	無
		隣接施設	春日学園 春日育成苑

所在地 〒669-4274

丹波市春日町棚原3098-1

E-mail Hikami_shien@pref.hyogo.lg.jp

交通機関 JR福知山線「黒井駅」下車 南東 3km
神姫グリーンバス野瀬行春日学園前下車
南西150m



<学級数・児童生徒数>

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	7	8	11	26
人 数	22	29	52	103

<地域別児童生徒数>

丹波市 95(12)名 丹波篠山市 1(1)名 姫路市 1(1)名
伊丹市 1(1)名 明石市 2(2)名 西脇市 1(1)名
三木市 1(1)名 県外 1(1)名

児童生徒数は令和8年5月1日現在 春日学園入所者は()内

<主な学校行事>

1 学期	遠足 運動会 交通安全教室 地域貢献活動 小・中学校との交流会 交流及び共同学習 現場実習 職場見学 避難訓練 社会見学
2 学期	小・中・高等学校との交流会 社会見学 現場実習 修学旅行 学習発表会 eスポーツ交流活動 マラソン大会 クリスマス会
3 学期	新春書き初め大会 高等部入学者選考

<校章の由来>

上に向かう3つの円は校訓である「自主・友愛・参加」を内包し、若葉は未来に向かって成長する児童・生徒の姿を表している。それらを支える対の形は、人の姿の軸を抽象化したものである。

<校 訓>

自主・友愛・参加

<本校の特色>

本校は、徳川家光の乳母、春日局生誕の地として、また丹波大納言小豆発祥の地としても知られる丹波市春日町にあります。地教行法によるコミュニティ・スクールを核とした学校づくりを推進し、eスポーツを通じた交流および共同学習、地域貢献活動などを行っています。また、生成AIパイロット校として、テクノロジーを安心・安全に活用した先進的な学びを推進しています。そして、児童生徒につけたい力を定め、キャリア教育の観点を踏まえた授業づくりに取り組んでいます。

【地域でのセンター的機能等】

本校では、地域における特別支援教育のセンター的機能を果たすため、以下の取り組みを行っています。

主な活動内容

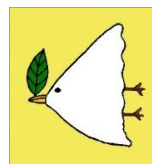
- ① 教育相談（来校相談/訪問相談/電話相談）
- ② 学校見学や就学・入学に関する相談
- ③ 各種研修会講師
- ④ 各種協議会等参加
- ⑤ 特別支援教育講演会開催・基礎講座公開
- ⑥ 教材教具の貸し出し

<令和7年度の進路状況>

【中学部】 10名 （本校高等部進学10名）

【高等部】 14名

・企業就労	4 名	・就労移行支援	0 名
・進学	0 名	・就労継続支援A型	3 名
・就労継続支援B型	2 名	・施設入所等	2 名
・生活介護	2 名	・自宅・その他	1 名



「ひかピー」
本校オリジナルキャラクター



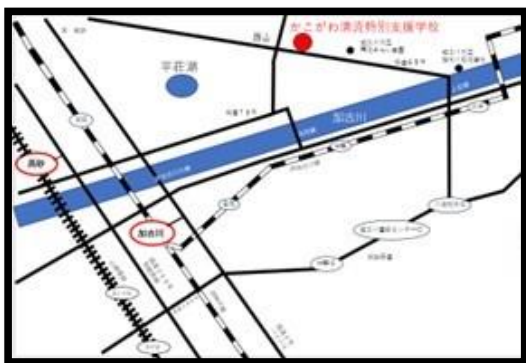
生成 AI を活用した学び





兵庫県立かこがわ清流特別支援学校

校 長	大牧 愛由美	設置学部	高等部
教 頭	植田 修平	対象障害	知的障害
設置年度	令和 8 年	スクールバス	3 台
TEL	(079) 428-3780	高等部設置年度	令和 8 年
FAX	(079) 428-3781	寄 宿 舎	無
所在地	〒675-1221	隣接施設	無
	加古川市平荘町山角 467		
E-mail	seiryuu_shien@pref.hyogo.lg.jp		
交通機関	JR 神戸線 加古川駅下車 南口神姫バス 5 番乗場 51 系統都台行き「山角」下車		



＜学級数・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	-	-	7	7
人 数	-	-	28	28
*小学部、中学部は令和 9 年度開設				
＜地域別児童生徒数＞				
加古川市（北部）16名 高砂市12名				

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

1 学期	入学式 春の遠足 授業参観 現場実習(高 3)
	校内実習(高 2) 春期自然体験学習 オープンスクール
2 学期	運動会 現場実習(高 2・3) 秋期自然体験学習
	校外学習 宿泊学習(高 2) 修学旅行(高 3)
3 学期	清流祭 高等部入学者選考 卒業遠足 卒業式

＜校章の由来＞

加古川市と高砂市の 2 市の生徒を結びたいという想いを込め、結びのまち高砂市の水引細工で、かこがわのイニシャル「K」を、清らかに流れる川で清流のイニシャル「S」を表現しています。また、加古川市のシンボルの花であるツツジは「純白」で無垢さを「萌黄色」で若々しさを表しています。ツツジの花の中央の星は、生徒達が自分の個性を大切に輝けるようにとの願いが込められています。さらに生徒達がお互いを認め合い、一つの輪になれるように周りは円で囲んでいます。元気に自分らしく希望を持って成長する明るい印象にしています。

＜校 訓＞

心ゆたかに(笑顔)
たくましく(元気)
自分らしく(希望)

＜本校の特色＞

本校は130年以上の歴史をもつ旧平荘小学校跡地に建設されました。地域に開かれた学校として、近隣住民との交流を視野に入れたカフェを運営し、校内には旧小学校のゆかりの品を展示する地域交流室が設置されています。

【地域でのセンター的機能等】

○ 教育相談について

- ・就学前の幼児や小学校・中学校・高等学校に在籍する児童生徒を対象に教育相談を実施
- ・こども園、幼稚園、保育園等や小・中学校等の依頼に応じて巡回教育相談を実施
- ・「教育あんしん相談」を実施し、特別支援教育に係る様々な相談に対応

○ 研修について

- ・加古川市、高砂市の小・中・養護学校、高等学校等の職員を対象にして公開研修会を開催
- ・地域の特別支援教育の充実を図るために、近隣のこども園、義務教育学校、養護学校との合同研修会を定期的に実施



自然体験学習
カレー作りの様子



自然体験学習
工作の様子



外部人材参画授業講座
(本校多目的室)



兵庫県立いなみ野特別支援学校

校長 赤坂 なおみ
教頭 芦田 貴美子

大島 永敏

福本 雄介

設置年度 昭和 55 年

TEL (079)492-6161

FAX (079)492-6162

所在地 〒675-1114 加古郡稲美町国安 1284-1

E-mail Inamino_shien@pref.hyogo.lg.jp

交通機関 JR「土山駅」より神姫バス上新北口・厄神前行

・稲美中央公園前下車、徒歩 8 分

設置学部 小・中・高

対象障害 知的障害

スクールバス 11 台

寄 宿 舎 無

高等部設置年度 昭和 58 年

隣接施設 無

<主な学校行事>

- | | | | |
|------|---------------|--------------|-----------|
| 1 学期 | 新入生歓迎会（中） | 対面式（高） | 修学旅行（高） |
| | 遠足（小） | 火災避難訓練 | 現場実習（高 2） |
| | 宿泊学習（小 5） | | |
| 2 学期 | 修学旅行（小・中） | 運動会（高） | 現場実習（高 3） |
| | 宿泊学習（中 2・高 2） | | |
| 3 学期 | 販売学習（中） | いなみ野お店屋さん（小） | 地震避難訓練 |
| | 販売学習（高） | 校内実習（高 1） | 現場実習（高 2） |

<校章の由来>

本校の校章は、() でいなみ野の「い」を表している。

また、校歌の歌詞にある「輝く太陽」を●の赤で、「うつす琴池」を○の青で、「ひらける播磨」の大地を()の緑で表すとともに、みんなで作る、明るく豊かな学校を表現している。

そして、丸みは「和」がとれた姿を、全体では「協力」し「支えあう」姿、「あいさつをしている」姿など調和がとれた豊かな児童生徒を表現している。

<校 訓>

明朗 協力 自立

<本校の特色>

一人一人のニーズに応じた豊かな教育を推進し、社会の一員として主体的に生きる意欲を育てる。

開かれた学校づくりをめざし、地域とふれあう交流教育の推進を行っている。

【地域でのセンター的機能等】

- ・ 特別支援教育コーディネーターを中心に、教育相談や学校見学・就学相談を実施し、また、学校園の依頼に応じて相談、子どもへの指導、教材の貸し出し、研修会の講師派遣を実施している。
- ・ 公開研修や学校HP・広報誌を充実し、特別支援教育の啓発活動に努めている。
- ・ 副籍を導入した居住地校交流、交流及び共同学習(高校との交流・学校間交流)の実施やオープンスクールを通して、地域に根ざした学校づくりに取り組んでいる。

<令和 7 年度の進路状況>

- | | |
|--------------|------------------|
| ■ 中学部 | 24 名 |
| ・ 高等部進学 | 本校 20 名 |
| | かこがわ清流特別支援学校 4 名 |
| ■ 高等部 | 52 名 |
| ・ 一般就労 | 3 名 |
| ・ 就労移行支援 | 2 名 |
| ・ 就労継続支援 B 型 | 39 名 |
| ・ 生活介護 | 7 名 |
| ・ 療養介護 | 1 名 |

あおの訪問学級

TEL (0794)62-2567 **FAX** 同左

所在地 〒675-1327 小野市市場町 926-453

独立行政法人国立病院機構 兵庫あおの病院内

<学級数・児童生徒数>

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	41	20	26	87
人 数	176	84	135	395

<地域別児童生徒数>

明石市 283 名 加古川市 67 名 稲美町 31 名
その他 14 名

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在



地域交流（小学部）

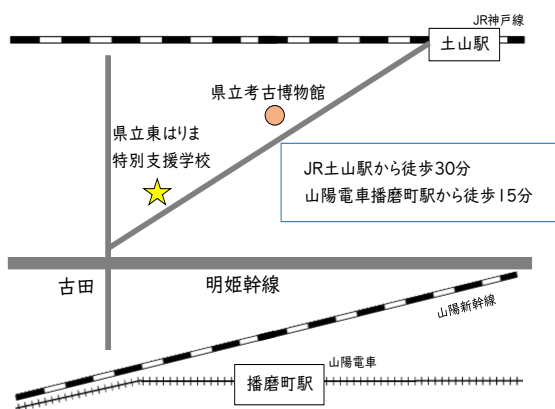


病棟運動会（あおの訪問学級）



兵庫県立東はりま特別支援学校

校長	宇野 和美	設置学部	小・中・高
教頭	静川 礼美	対象障害	知的障害
	岩城 さおり	スクールバス	10 台
設置年度	平成 21 年	小中学部設置年度	平成 23 年
TEL	(079) 430-2820	寄 宿 舎	無
FAX	(079) 430-2821	隣接施設	無
所在地	〒675-0148 加古郡播磨町北古田 1-17-17		
E-mail	hharima_shien@pref.hyogo.lg.jp		
交通機関	山陽電車播磨町駅から徒歩 15 分 JR 土山駅から徒歩 30 分		



＜学級数・児童生徒数＞

学部	小学部	中学部	高等部	合計
学級数	27	17	25	69
人数	107	69	135	311

＜地域別児童生徒数＞

高砂市72名 加古川市190名 播磨町42名 明石市7名

児童生徒数は令和8年5月1日現在

＜主な学校行事＞

1 学期	入学式 体験学習（小） 宿泊学習（中2・高2）
2 学期	体育フェスタ（小） スポーツカーニバル（中） 修学旅行（小6・中3・高3） 東はりまフェスタ
3 学期	東はりま作品展 販売学習（中） 卒業式



プール水泳



スポーツカーニバル

＜校章の由来＞

全体の形は、播磨町の町花である菊、播磨地域の「は」と東部（EAST）の「e」も合わせて表現しています。そして、4枚の花びらは「学校・家庭・地域・行政」を示しています。

＜校 訓＞

明るく 正しく 元気よく

＜本校の特色＞

一人一人の児童・生徒に応じた教育を行い、将来社会の一員として自立し、自己実現のできる人間の育成を図り障害の克服に努めています。そのために、学級編制や教育課程上で様々な工夫を取り入れながら日々の教育実践を行っています。

＜各学部の教育目標＞

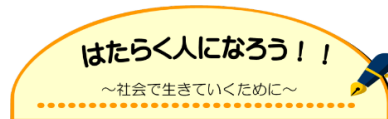
小学部教育目標



中学部教育目標



高等部教育目標



【地域でのセンター的機能等】

- ・「教育あんしん相談」を実施し、特別支援教育にかかわる様々な相談に応じています。
- ・本校、地域の特別支援教育を充実させるため、講師を招くなどして地域に開かれた研修会を実施します。
- ・教材教具、支援に関する物品の貸し出しを行います。

＜令和7年度の進路状況＞

【中学部】	25名		
・高等部進学	25名（本校25名）	・その他	0名
【高等部】	44名		
・企業就労	0名	・就労移行支援	3名
・就労継続支援A型	1名	・就労継続支援B型	30名
・自立訓練	0名	・生活介護	9名
・その他	1名	・職業訓練	0名



兵庫県立北はりま特別支援学校

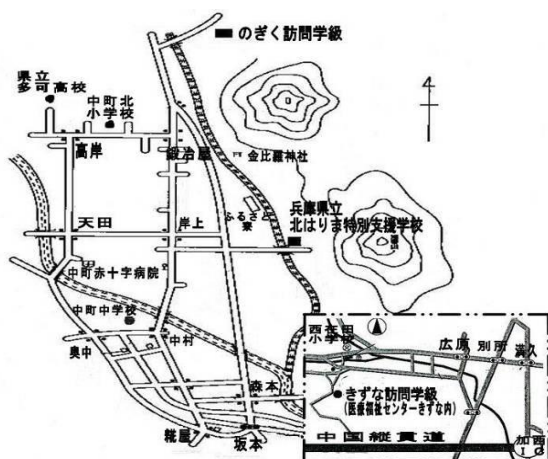
校長	谷水 郁代	設置学部	小・中・高
教頭	柳本 真一 古川 貞之	対象障害	知的障害
設置年度	昭和 54 年	スクールバス	7 台
TEL	(0795)32-3672	高等部設置年度	平成 4 年
FAX	(0795)32-3967	寄 宿 舎	無
所在地	〒679-1112 多可郡多可町中区間子 602-1	隣接施設	いちれび学園
E-mail	kitaharima-sn@hyogo-c.ed.jp		
交通機関	神姫バス西脇市駅鍛冶屋線「岸上」下車 北東 1km		

きずな訪問学級

TEL	(0790)44-2884	FAX	(0790)44-2884
所在地	〒675-2456 加西市若井町字猪野 83-31		

のぎく訪問学級

TEL	(0790)44-2884(代)	FAX	(0790)44-2884(代)
所在地	〒679-1103 多可郡多可町中区牧野 183-1		



<学級数・児童生徒数>

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	13	11	11	35
人 数	54	43	56	153

<地域別児童生徒数>

西脇市62名 加東市47名 多可町39名 加西市 1 名
岸和田市 1 名 丹波市 1 名
芦屋市 1 名 丹波篠山市1名

令和 8 年 5 月 1 日現在



本校周辺風景

<主な学校行事>

- 1 学期 春の遠足 (小) 社会見学 (中)
春季体験学習 (高) 校内・現場実習 (高)
宿泊体験学習 (高)
- 2 学期 修学旅行 (小、中、高) 秋の遠足 (小)
校内・現場実習 (高) オープンスクール
秋季体験学習 (中、高)
- 3 学期 校内実習 (中) 買物学習 (小、中)
卒業を祝う会 (小、中、高)

<校章の由来>

はりまの「は」をデザイン化し、らせん状は前進・発展・和を表している。この校章は、学校設立にあたり、本校元教諭の創作である。

<校 訓>

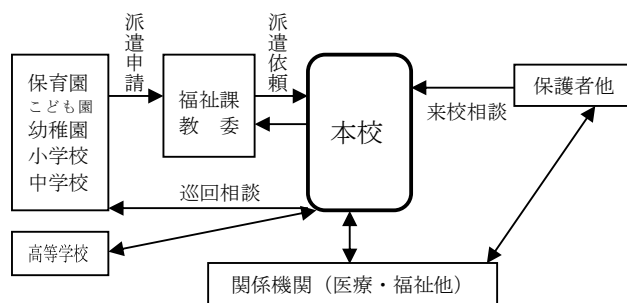
明るく 仲良く 生き生きと

<本校の特色>

児童生徒一人一人の教育的ニーズに基づき、自分の人生をたくましく生き抜く力を獲得するために、個々の能力を最大限に伸ばし、自立と社会参加のできる調和の取れた人間を育む。

【地域でのセンター的機能等】

- ・巡回相談…学校園所の要請に応じて訪問し、相談・助言・研修協力等を行っています。
- ・来校相談…発達等で気になる幼児・児童・生徒・保護者・関係機関の支援者を対象に行っています。



- ・諸機関との連携…協議会等で連携しながら、地域の特別な支援が必要な子どもへの支援のあり方を情報交換・検討しています。
- ・交流及び共同学習…小・中学部児童生徒の希望者を対象に居住地校交流を実施、また近隣の小学校・中学校・高等学校と学校間交流を実施しています。
- ・理解・啓発…特別支援教育に関する公開研修会の実施や、学校通信の発行等を通じて進めています。

<令和7年度の進路状況>

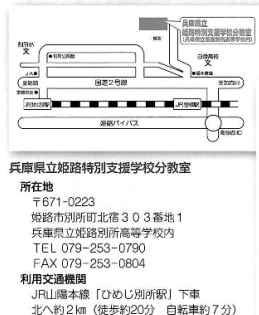
【中学部】	14名	(本校高等部進学 13名)
【高等部】	13名	
・企業就労	1 名	・就労移行支援 1 名
・生活介護	5 名	・就労継続支援B型 4 名
・療養介護	1 名	・その他 1 名



兵庫県立姫路特別支援学校

校 長	高橋 幹夫	設置学部	小・中・高
教 頭	久野 浩司	対象障害	知的障害
	奥村 愛	スクールバス	10 台
	吉田 拓生	寄 宿 舎	無
設置年度	昭和 50 年	高等部設置年度	昭和 54 年
分教室	平成 23 年度開設		
姫路ルルド訪問学級	平成 29 年度開級		

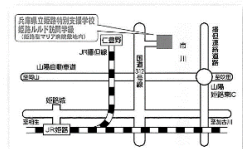
学 校 案 内 図



兵庫県立姫路特別支援学校分教室

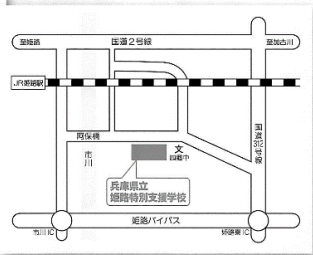
所在地
〒671-0223
姫路市別所町北宿 3 0 3 番地 1
兵庫県立姫路別所高等学校内
TEL 079-253-0790
FAX 079-253-0804

利用交通機関
JR山陽本線「ひめじ別所駅」下車
北へ約 2 km (徒歩約 20 分 自転車約 7 分)



兵庫県立姫路特別支援学校姫路ルルド訪問学級

所在地
〒670-0801
姫路市仁豊野 650 (姫路聖マリア病院敷地内)
※開合せ先
兵庫県立姫路特別支援学校
利用交通機関
JR播磨線「仁豊野駅」下車 (南へ徒歩 10 分)
神姫バス 姫路駅 (北口) ⑦番のりばより約 25 分
「国道マリア病院」停留所下車 (徒歩 2 分)



兵庫県立姫路特別支援学校

所在地
〒671-0247
姫路市四郷町東阿保下戸明 476 番地 1
TEL 079-285-3765
FAX 079-285-2039

利用交通機関
神姫バス JR姫路駅北バスターミナル⑨のりば乗
「見野古遺跡 (竜運) 行」四郷学院前バス停下車
西へ徒歩約 6 分

<校章の由来>

姫路のシンボル白鷺の形を借り、ひめじの「ひ」養護学校の「Y」中心の円は子どもの円満な成長を願う。又、校舎の配置から、ホール (円) の意味も含めます。

<校 訓> 自分のことは 自分でしよう

<本校の特色>

- 1 遊びの指導、生活単元学習、作業学習、現場実習等の体験を重視した学習を中心に、自ら学ぶ意欲や主体的に生きる力の育成を図っています。
- 2 児童生徒一人一人の障害の状態に即した教材教具を開発・工夫し、個性を生かした指導の充実を図っています。
- 3 兵庫県下初の高等学校内に設置された普通科「職業コース」の分教室として、県立姫路別所高等学校との交流及び共同学習や地元企業と連携した取組を行っています。

【地域でのセンター的機能等】

- ・自立支援部を中心に、学校見学、教育相談、入学相談に随時応じています。
- ・本校の職員研修会に地域校 (幼・小・中・高) や特別支援学校の教職員を招いて、一緒に研修を進めています。
- ・小学部、中学部は近隣の小学校、中学校と年間を通して学校間交流を推進しています。高等部は、近隣の高等学校と体育祭、文化祭、学習等を通して交流及び共同学習に取り組んでいます。
- ・商業施設、地域の公民館での販売学習や、カフェの営業、展示の実施等を行い、地域への啓発と理解に努めています。

<学級数・児童生徒数>

学部等	小学部	中学部	高等部	分教室	合 計
	(訪問学級を含む)				
学級数	28	14	26		68
人 数	106	57	115	38	316

<地域別児童生徒数> 姫路市 268 名 福崎町 20 名
市川町 6 名 神河町 9 名 その他 (通学以外) 13 名

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

<主な学校行事>

- 1 学期 入学式、春の散策 (訪)、オープンスクール、現場実習 (高) 夏の自然教室 (高)、ひめとくマルシェ (高)
 - 2 学期 オープンスクール、現場実習 (高)、宿泊学習 (小)、自然体験活動 (中)、修学旅行 (小・中・高・訪) ひめとくフェスティバル、ひめとくマルシェ (高)
 - 3 学期 現場実習 (高)、卒業式
- 年 間 体験学習 (小・中・高)、学校間交流 (小・中・高)、コミュニティスクール活動 (花育・読み聞かせ、公民館展示・掃除・喫茶体験、地域の企業による清掃や喫茶の指導、等)

<令和 7 年度の進路状況>

【中学部】32 名 高等部進学 31 名 (内、分教室 1 名) その他 1 名
【高等部】41 名 企業就労 9 名 就労移行 3 名
就労継続 B 型 23 名 生活介護 3 名
療養介護 1 名 施設入所 1 名
進学 1 名 (通信制・単位制課程技能教育施設)

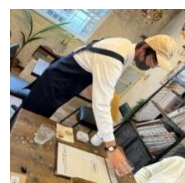
<授業の様子>



小学部 (読み聞かせ)



中学部 (花育)

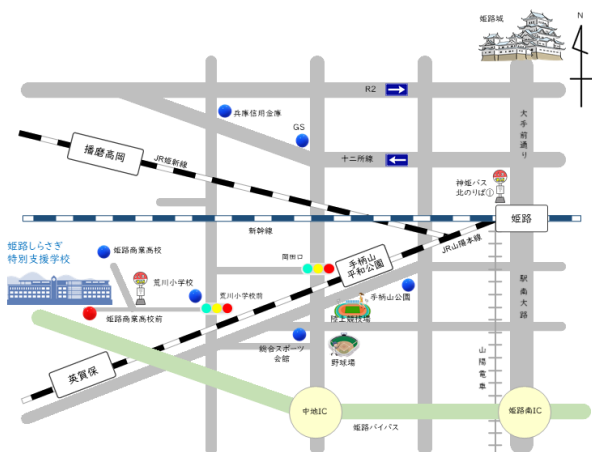


高等部 (体験実習)



兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校

校長	岩崎 正彦	設置学部	小・中・高
教頭	上田 邦成	対象障害	知的障害
	有吉 理恵	スクールバス	12 台
設置年度	平成 26 年	高等部設置年度	平成 26 年
TEL	(079) 295-2200	寄 宿 舎	無
FAX	(079) 298-1060	隣接施設	無
所在地	〒670-0986 姫路市苫編 688-58		
E-mail	shirasagi_shien@pref.hyogo.lg.jp		
交通機関	J R 「姫路駅」北①から神姫バス 「姫路商業高等学校前」下車 J R 「英賀保駅」から北東約 2.6 km J R 「手柄山平和公園駅」から西約 2.3 km		



＜校章の由来＞

「しらさぎ」がモチーフとなっています。全体を見ると白鷺がハートをかたどって、素直で優しく、清らかな心を守ってくれている様子を表しています。そして、白鷺を羽ばたかせることで、健やかな成長を願う様子を表しています。

＜校 訓＞

かがやき ときめき はばたき

＜本校の特色＞

- ・児童生徒の障害の状態や発達段階に応じたきめ細かい指導を図り、一人一人の教育的ニーズに基づいた教育を行います。
- ・学校と家庭、地域、関係機関が連携して、児童生徒一人一人の可能性を引き出し、成長を見守ります。
- ・多様な体験学習を推進し、豊かな人間性や社会性を育みます。

【キャリア教育及び進路指導の充実】

小・中・高一貫したキャリア教育を推進し、自立と社会参加をめざした教育活動を行います。

【交流及び共同学習の推進】

共生社会の形成をめざし、居住地の学校交流や近隣の小学校・中学校・高等学校との交流及び共同学習を行います。

【地域でのセンター的機能等】

◇教育相談

保護者、地域の学校園から、就学や学習についてなど電話や来校による教育相談を随時受け付けています。

◇学校等訪問支援

教育支援（地域支援）の申請を受けた学校園を訪問し、支援内容の助言を行います。

◇職員研修などの講師派遣

姫路市教育委員会教育研修課と連携し、支援の必要な幼児児童生徒への支援のあり方や個別の指導計画等の作成について職員研修を行います。

＜学級数・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	35	24	24	83
人 数	148	88	112	348

＜地域別児童生徒数＞ 姫路市 348 名

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

1 学期	入学式	オープンスクール
	校外体験学習	体育参観（小・中 3）
	現場実習（高）	自然体験活動（中）
	宿泊体験学習（高）	
2 学期	交流及び共同学習	オープンスクール
	修学旅行	保護者参観（小・中・高）
	体育参観（中・高）	
	現場体験実習（高）	校外体験学習
	宿泊体験学習（小・中）	
3 学期	現場体験実習（高）	校外体験学習
	卒業式	

＜令和 7 年度の進路状況＞

【中学部】 20 名

- ・本校高等部進学 18 名
- ・県内特別支援学校進学 2 名

【高等部】 38 名

- ・進学 0 名
- ・企業就職 1 名
- ・就労移行支援 0 名
- ・就労継続支援 B 型 15 名
- ・自立訓練 0 名
- ・生活介護 20 名
- ・その他 2 名



高等部
対面式



中学部
社会体験活動

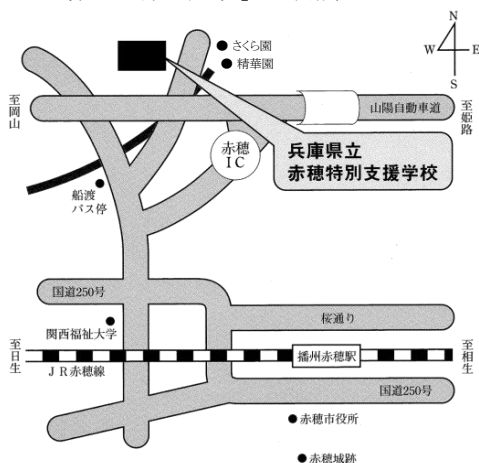


小学部
山登り



兵庫県立赤穂特別支援学校

校 長	森川 晃	設置学部	小・中・高
教 頭	丸尾 和史	対象障害	知的障害
設置年度	昭和 51 年	高等部設置年度	昭和 62 年
T E L	(0791) 43-9266	スクールバス	4 台
F A X	(0791) 43-9527	寄 宿 舎	無
所在地	〒678-0252 赤穂市大津 1305	隣接施設	赤穂精華園
E-mail	ako-sn-ad@hyogo-c.ed.jp		
交通機関	JR「播州赤穂駅」下車、ウエスト神姫バス 湯の内線「船渡」停留所北へ 1.4 km		



<学級数・児童生徒数>

学 部	小学部	中学部	高等部	合計
学級数	12	8	8	28
人 数	48	32	51	131

<地域別児童生徒数>

赤穂市 98名 相生市 33名

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

<主な学校行事>

- 1 学期 交通安全学習(小) 新入生歓迎行事 自然体験活動(中) 夏季野外活動(高) 校外宿泊学習(小4・5) 職場・施設体験実習(高) オープンスクール 防災訓練 坂越中学校交流(中) 赤穂高校(定) 交流(高) 関西福祉大学交流(高1) 塩屋女性会交流(中)
- 2 学期 体験入学(高) 修学旅行(小・中・高) 職場・施設体験実習(高) 防災訓練 チャレンジデイズ(中) 坂越中学校交流(中) 塩屋小学校交流(小) 体育参観日(小・中・高) マラソン記録会(高) 上郡高校交流(高) 赤穂高校(全・定) 交流(高)
- 3 学期 赤特作品展 防災学習・訓練 音楽参観(小) 6 年生を送る会(小) 赤穂高校(定) 交流(高) 卒業生を送る会(中) 卒業生を送る会(高) 卒業式(小・中・高)

<校章の由来>

- ・外枠：赤穂の「赤」の文字をデザイン化
- ・特(文字)：特別支援学校の「特」

<校 訓>

あかるく・心ゆたかに・たくましく

<本校の特色>

人間尊重の精神を基礎とし、児童生徒一人一人の生きる力を育て、主体的に生きる能力の伸長を図るとともに、将来、社会に参加し、自立できる調和のとれた人間を育成する。

【地域でのセンター的機能等】

- ・教育相談室「ふらっと・あいルーム」を設置し、特別な支援が必要な子ども・保護者・学校園所の教職員を対象に教育相談を行っています。
- ・地域の保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の要請に応じて、訪問による学校コンサルテーションを行っています。
- ・学校園所や教育委員会主催の研修会への講師派遣を行っています。

【進路指導：わくワークらいふシステム】

- ・本校では、児童生徒や保護者のニーズ、施設や企業のニーズ、時代の流れ等にに合わせて、新たなシステム「わくワークらいふシステム」で進路指導を行う計画を開始しました。「わくワークらいふシステム」とは、高等部卒業後、自分らしく継続的に働いたり、自分らしく生活したり、生きることができるよう、「一人一人の実態に応じた進路指導」を行うものです。本校の全ての児童生徒が卒業後、「わくわくする生活」や「わくわくする仕事」につながるように、保護者と共に支援していく計画です。本校ホームページの進路でも紹介していますので、ぜひご覧ください。

<R7年度の進路状況>

【中学部】 18名

- ・高等部進学 15名・高等学校(通信制) 2名
- ・公共職業能力開発施設 1名

【高等部】 12名

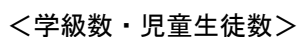
- ・企業 6名・就労継続支援B型 6名



高等部:作業学習を通して
自分にあった働き方を発見します。



「JR相生駅」からバスで27分、又は車で約20分
「JR姫路駅」からバスで55分、又は車で約40分
「播磨新宮駅」からバスで19分、又は車で約20分

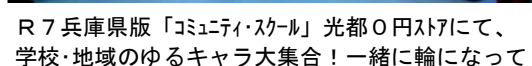


＜地域別児童生徒数＞

児童生徒数は令和8年5月1日現在

＜主な学校行事＞

- ・就職 2名
- ・進学 0名
- ・就労継続支援A型 1名
- ・生活介護 7名
- ・就労継続支援B型 9名





兵庫県立出石特別支援学校

校長	篠谷 徹志	設置学部	小・中・高
教頭	上田 由紀子	対象障害	知的障害
(みかた校) 中村 友		高等部設置年度	昭和 61 年
設置年度	昭和 49 年度	スクールバス	4 台
TEL	(0796) 52-3565	寄宿舎	無
FAX	(0796) 52-3566	隣接施設	県社会福祉事業団 出石精和園成人寮
所在地	〒668-0204 豊岡市出石町宮内 2-8		

E-mail Izushi_shien@pref.hyogo.lg.jp
交通機関 JR 山陰本線「豊岡駅」又は「江原駅」で下車
 全但バス出石方面。「鳥居バス停」下車、徒歩 10 分



<校章の由来>

タイサンボクの花をモチーフにしたものに旧校章の「出石」を上下に並べ若葉の育つ様子を表したものを配した。

<校訓>

自立・協同・努力

出・石→



<本校の特色>

タイサンボクの花 → 通
 ・コウノトリが舞う豊かな自然に恵まれ、四季折々の学習...
 して「豊かなこころ」を育み、社会の一員として可能な限り自立で
 できる力を培っている。

<みかた校の特色>

・令和 6 年度に開校 10 年目を迎えた但馬北西部初の特別支援学校。
 緑豊かな自然に囲まれ、近隣の小中学校・高校および地域と交流、
 連携した教育活動を実践している。

<学級数・児童生徒数> []内はみかた校

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	5 [5]	4 [4]	10 [5]	19 [14]
人 数	12 [7]	10 [7]	40 [15]	62 [29]

<地域別児童生徒数>

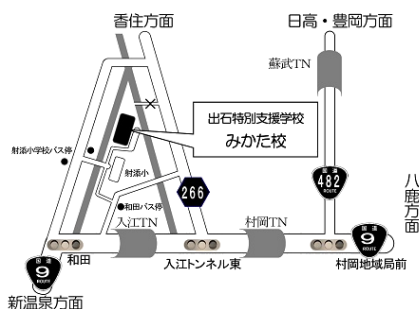
<本 校> 豊岡市 54 名 養父市 8 名
 <みかた校> 香美町 11 名 新温泉町 18 名

※児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

みかた校

設置年度	平成 27 年度	設置学部	小・中・高
TEL	(0796) 95-1225	対象障害	知的障害
FAX	(0796) 95-1227	スクールバス	3 台
所在地	〒667-1366 美方郡香美町村岡区川会 33		

E-mail Izushi_shien@pref.hyogo.lg.jp
交通機関 全但バス「和田バス停」下車、北へ徒歩 6 分
 香美町民バス「射添小学校バス停」下車、北
 東へ徒歩 2 分



<主な学校行事>

- | | |
|------|----------------------------|
| 1 学期 | 自然体験活動 (小高学年・中 みかた小高) |
| | 修学旅行 (高、みかた・中高) 就業体験活動 (高) |
| | 宿泊体験学習 (高) 学校紹介 DAY ! |
| 2 学期 | 運動会・学習発表会 隔年 (本校 みかた) |
| | 修学旅行 (中) |
| 3 学期 | 販売学習 (高) |
| 通 年 | 近隣小中学校、高等学校との交流及び共同学習 等 |

【地域でのセンター的機能等】

- ・保護者や関係機関からの依頼に基づいて、特別支援教育の観点から障害の特性や発達に関した相談に応じる。
- ・障害のある幼児児童生徒に関する指導や巡回による支援を行う。
- ・各種学校園の教員等に対し、相談や情報提供、研修協力を幅広く行う。
- ・学校見学や体験入学の機会を設け、適正な就学指導の援助に配慮する。

<令和 7 年度の進路状況> () 内はみかた校

【中学部】3 名 (2 名)

・高等部進学 3 名 (2 名)

【高等部】11 名 (7 名)

・企業就労 6 名 (3 名) ・就労移行 0 名 (0 名)
 ・就労継続 B 型 3 名 (3 名) ・生活介護 1 名 (0 名)
 ・その他 1 名 (1 名)



本校中学部 総合

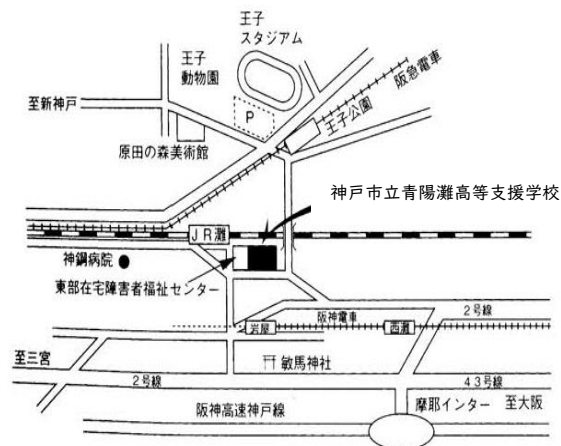


みかた校高等部 作業学習



神戸市立青陽灘高等支援学校

校長	三瀬 博道	設置学部	高等部
教頭	井上 聞三	対象障害	知的障害
設置年度	令和3年	スクールバス	3台
TEL	(078)871-1800	寄 宿 舎	無
FAX	(078)871-1950	隣接施設	東部在宅障害者福祉センター
所在地	〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町6-1-1		
E-mail	seyh-se@kobe-c.ed.jp		
交通機関	JR 灘駅から南東へ80m 阪神岩屋駅から北へ100m		



<学級数・生徒数>

学 年	1 年 生	2 年 生	3 年 生	合 計
学級数	7	5	6	18
人 数	43	33	35	111

生徒数は令和8年5月1日現在

<主な学校行事>

1 学期	前期現場実習（3年）修学旅行（3年） 授業参観（全学年） 個別懇談会（全学年）
2 学期	後期現場実習（3年）前期現場実習（2年） 体育授業参観（各学年） 個別懇談会（全学年） 青陽灘ドリームフェスティバル
3 学期	後期現場実習（2年） 個別懇談会（全学年） せいようワークマルシェ

<令和7年度の進路状況>

【高等部】 36名			
・就労	3名	・就労移行支援	1名
・就労継続支援A型	2名	・就労継続支援B型	20名
・生活介護	6名	・自立訓練	3名
・在宅	1名		



校舎外観

<校章の由来>

太陽「青陽」をイメージして全体を丸の形にし、その中の青陽の「青」、灘の頭文字の「N」をデザインしている。翼を大きく広げた鳥には、未来を創造的に切り開いてほしいという願いが込められている。

元はカラーでグリーンは摩耶山、ブルーは灘の浜、オレンジは灘区の花マリーゴールド、ピンクは兄弟校である灘さくら支援学校とのつながりを表している。

<理念>

「挑戦（チャレンジ）調和（ハーモニー）創造（クリエーション）」

- ・自尊心を高く持ち、自分を信じて学ぶ姿勢。
- ・社会で生き抜くための人格形成。
- ・経験や体験、出会いを大切にしながら学び続けようとする姿勢。

<教育課程>

卒業後の進路を見据えた3年間の学びを充実させるため、次の3つのコースを設けています。

生活コース・・・豊かに生きる力を高め、日常生活に必要な知識、技能を身につけます。

社会コース・・・卒業後の自立、社会参加を目指し必要な知識、技能を身につけます。

職業コース・・・多様な活動を通して社会人としての資質と適応力を身につけます。

【作業学習】

作業を通して働くことへの意欲を高めると同時に細かな作業やコミュニケーション等を含めた必要なスキルを身につけます。（ビルメンテナンス、喫茶、園芸・紙工、窯業、木工、織物、委託・清掃、ハンドクラフトなど）

【自立活動】

全てのコースにおいて、個に応じた自立活動の視点を大切にして取り組み、多角的な支援を学校全体で行っています。

【各教科】

「職業」では卒業後の進路に向けて意識づけを行い、「情報」ではパソコン入力などの操作やネット検索、情報モラルなど幅広く学習します。

【地域でのセンター的機能等】

【教育相談】

- ・主に中学校・義務教育学校の特別支援学級に在籍する障害のある子供たちについて、コーディネーターらが学校を訪問し、教職員や保護者を対象に相談を行います。
- ・相談内容に応じて電話やメール、来校などの相談を行います。
- ・対象となる子供の支援や学級経営、環境調整、就学、進路などの相談や情報提供をします。
- ・教材教具の相談を行います。また必要に応じて教材教具の貸し出しをします。

【情報提供】

- ・特別支援教育に関する情報（障害の特性、支援方法、地域の関係機関の情報など）を発信します。
- ・障害福祉や医療機関などの関係機関と連携するための情報提供をします。

【研修講師派遣】

- ・教育委員会や各学校園などからの要請に応じて、研修講師派遣を行います。

【研修案内】

- ・校内の研修や特別支援学校主催の研修の一部を講座として公開します。各校、主に通学区域の学校園に向けてお知らせしています。

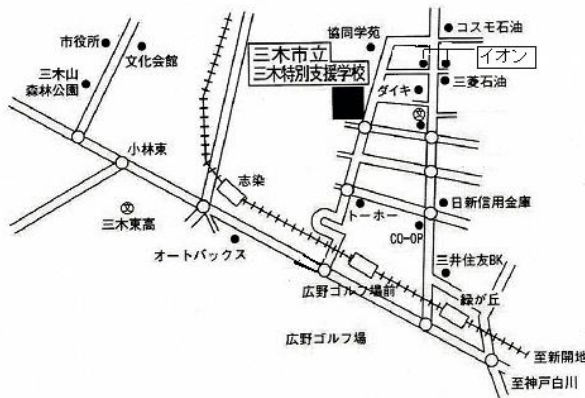
【特別支援学級担任者パワーアップ研修】

- ・教職員の専門性を生かし、特別支援学級担任者に向けた研修の講師を務めます。



三木市立三木特別支援学校

校長	橋本 泰一	設置学部	小・中
教頭	川崎 和俊	対象障害	知的障害
設置年度	昭和 49 年	スクールバス	3 台
TEL	(0794)84-0830	寄 宿 舎	無
FAX	(0794)89-8112	隣接施設	無
所在地	〒673-0521 三木市志染町青山 7 丁目 1 番地の 8		
E-mail	mikishiens@ns.miki.ed.jp		
交通機関	神鉄「緑が丘駅」下車、ゾーンバス ・ネスタリゾート神戸行き「三木北高前」 下車、西へ 200m ・志染駅行き「三木特別支援学校前」下車		



＜学級数・児童生徒数＞

学部	小学部	中学部	合計
学級数	7	8	15
人数	13	26	39
＜地域別児童生徒数＞ 三木市 39 名			

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

1 学期	春季校外学習 みきとく防災Days わくわくオーケストラ (中 1) みきとく合宿 (校外合宿) オープンスクール 卒業生のつどい
2 学期	みきとくフェスティバル (オープンスクール) 修学旅行 (中 2・3 年) 中学部 2 年トライやる・ウィーク 中学部 1・3 年職業体験 学習発表会 (オープンスクール)
3 学期	冬季校外学習 新入生体験入学(入学説明会) ※ 居住地校交流・地域校交流・三市特交流・ペア学習など 年間を通して実施

＜校章の由来＞

三木市章の中央に〈立〉(自立する子)と〈Y〉(旧校名養護学校の頭文字)を原形として図案化した天高く両手を上げて躍動する姿は「自立 元気 ともに伸びる」を表す。

さらに全体として左右対称、重なり合う三つの輪は和合・調和的発達・友愛・協調の教育理念を表す。

＜校 訓＞

自立 元気 ともに伸びる

＜学校運営目標＞

好きを増やし 社会とつながる

＜本校の特色＞

学校間交流、居住地校交流、地域との交流に積極的に取り組んでいる。また、応用行動分析 (ABA) を教員の共通の認識とし、その知見を深めよりよい支援につなげるために研究を進めている。

【地域でのセンター的機能等】

- ・教育相談
三木市内幼・小・中学校及び認定こども園等を対象として実施
各福祉、行政機関等と連携して実施
- ・進路研修会及び性教育研修会、応用行動分析学研修会開催
本校及び三木市内特別支援学級担任・保護者等に参加案内を行い、学校・医療福祉機関・事業所等の関係者を講師として実施
- ・交流研修会開催
市内各居住地校等担当者の意見交換・研修

＜令和 7 年度の進路状況＞

【中学部】 8 名 ・近隣の特別支援学校高等部進学 8 名



卒業生のつどい



みきとく合宿



小野市立小野特別支援学校

校 長	中村 栄喜	設置学部	小・中
教 頭	藤田 九生子	対象障害	知的障害
設置年度	昭和 50 年	スクールバス	4 台
TEL	(0794) 66-2571	寄 宿 舎	無
FAX	(0794) 66-2570	隣接施設	無
所在地	〒675-1359 小野市昭和町 458-1		
E-mail	onotokubetusien-kyoto@ono.ed.jp		
交通機関	JR 加古川線「河合西駅」西へ徒歩 15 分		



<学級数・児童生徒数>

学 部	小学部	中学部	合 計
学級数	8	6	14
人 数	24	14	38

<地域別児童生徒数>

小野市 38 名

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

<主な学校行事>

1 学期	入学式 運動会 わくわくオーケストラ 親子職場体験
2 学期	トライやる・ウィーク&職場実習(中学部) 修学旅行 ふれあいフェスティバル 生活キャンプ マラソン大会 クリスマス会
3 学期	卒業生を送る会 卒業式



防災学習



オペレッタ
(浦島太郎と不思議な鬼退治)

<校章の由来>

円の内部は、養護学校の「よ」の字を図案化し、子どもが大きく手を広げて元気に頑張っている様子を表わし、外円は、学校の児童生徒が手をつなぎ助け合っていることを表わしている。

<校 訓>

明るくいいきと生きぬく子

<本校の特色>

- 「主体的に学びに向かうことが出k理字授業づくり」を研究主題に、根拠のある実態把握を通して、授業の充実・深化をめざし、取組を進めている。体力づくりを基盤に、自立活動、体験学習を重視し、毎日が充実感と満足感にあふれ、厳しさと楽しさのある教育活動を教育課程に位置づけている。
- タブレットPCを活用した学習活動を行うとともに、居住地校や近隣校との学習や交流をする機会を多く持ち、地域に根差した生活、社会的自立を目指している。
- 学校安全の確保を主眼に、児童生徒等にとって安全安心の学校づくりを目指す。令和 5 年度には、Safety Promotion School (SPS) 認証校となり、令和 8 年度再認証を受けた。今後さらに、児童・生徒・保護者、そして地域での関係者及び機関と連携し、学校が安全な場所であり、地域と連携しながら、『チーム学校』として組織的かつ継続的な取組を実践する学校づくりを目指している。

【地域でのセンター的機能等】

- 小・中学校等の教員への支援
特別支援教育コーディネーターネットワーク会議、授業研究会等研修会への講師派遣 アドバンス講座の実施
- 特別支援教育等に関する情報提供
個別の指導計画の作成・活用、具体的な支援・指導
- 巡回相談、教育相談の実施
就学前の園児、小・中学校の児童生徒の教育相談
- 福祉・医療・就労等の関係機関との連絡調整
発達障害児支援連絡会議、福祉部局、医療機関、福祉事業所トライアングルプロジェクト「学校と福祉の連携支援事業」
- 交流教育の実施・副籍制度の充実
近隣校交流(河合小・中学校)、居住地校交流、招待交流
※ 副籍の充実
- 施設設備の提供
小・中学校への支援ツール、教材等の貸し出し
放課後等デイサービス事業所への体育館・運動場等の施設開放
- 地域との連携
ふれあいフェスティバル(オペレッタ)を開催し地域へ発信
SPS 認証校として、学校安全の取組を小中学校へ広める。

<令和 7 年度の進路状況>

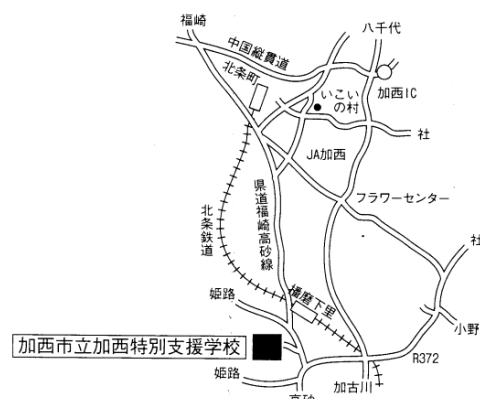
【小学部】2 名 ・ 中学部へ進学 2 名
【中学部】9 名 ・ 他校の高等部へ進学 9 名



加西市立加西特別支援学校

校長	高見 秀樹	設置学部	小・中・高
教頭	森川 茂樹	対象障害	知的障害
設置年度	昭和 51 年	高等部設置年度	平成 5 年
TEL	(0790) 48-2304	スクールバス	2 台
FAX	(0790) 48-3143	寄宿舎	無
所在地	〒675-2213	隣接施設	無

加西市西笠原町 172-50
 E-mail kasai-ses@kasai.ed.jp
 交通機関 北条鉄道「播磨下里駅」下車
 南へ徒歩約 1 km



<学級数・児童生徒数>

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	6	5	3	14
人 数	18	22	17	57

<地域別児童生徒数>

加西市 57 名

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

<主な学校行事>

1 学期	入学式	遠足	運動会	交通安全教室
	野外活動 (高)			
2 学期	修学旅行 (中・高)	トライやるウィーク		
	中特交流会	自然体験活動 (小・中)	宿泊学習 (小)	
	トリムランニング大会	創立 50 周年記念式典		
	学習発表会	わかばフェスティバル		
3 学期	卒業式	修了式		

<校章の由来>

円形の部分は、市章の加西の「西」をかたどっており、中央のわかばは、以前の学校名、養護学校の頭文字 Y をイメージしている。若いわかばが、太陽に向いて大きく育っていくことを願い作成された。



本校キャラクター
わかばちゃん

<校 訓>

明るく 強く 自立する子

<本校の特色>

- ・協働的な学びを通じたコミュニケーション能力の育成
- ・特別支援教育における STEAM 教育の推進
- ・12 年間の系統的なキャリア教育・進路指導
- ・充実した施設 (温水プール、感覚学習室等) を有効活用した教育活動

【地域でのセンター的機能等】

☆相談・情報提供機能

- ・市特別支援教育コーディネーター部会の開催
- ・教育相談、教員派遣 (幼・小・中)
- ・各種研修会の案内

☆連絡・調整機能

- ・関係機関 (医療・福祉・労働等) との連携
- ・児童療育室への訪問

☆指導・支援機能

- ・個別の指導計画及び支援計画作成要領の指導
- ・市内幼・小中特別支援学級への訪問

☆研修協力機能

- ・教材教具展の開催 (夏季休業中)
- ・各種研修会の開催 (市内幼・小・中に案内)

☆交流及び共同学習の実践

- ・隣接地校交流 (小学部)
- ・副籍を生かした居住地校交流 (小学部・中学部)
- ・市内高等学校との交流 (高等部)

<令和 7 年度の進路状況>

【中学部】 4 名

- ・高等部進学 4 名

【高等部】 12 名

- ・一般就労 2 名
- ・就労継続支援 A 型 1 名
- ・就労継続支援 B 型 4 名
- ・生活介護 5 名



お仕事体験



わかばフェスティバル

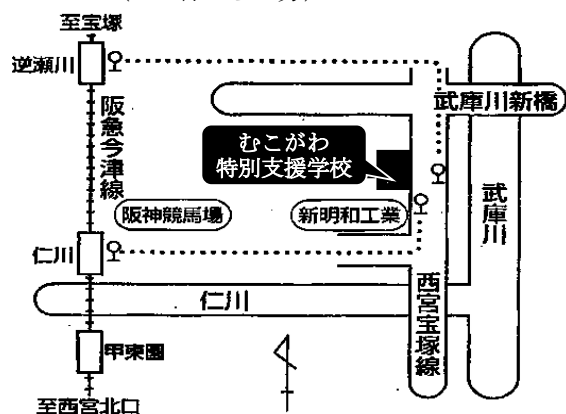


農業体験学習



兵庫県立むこがわ特別支援学校

校 長	富本 明子	スクールバス	9 台
教 頭	澤田 圭司		
	高木 明日香		
	大川 倫弘	寄 宿 舎	無
設置学部	保・幼・小・中・高	隣接施設	無
対象障害	聴覚障害(保・幼)、知的障害(小・中・高)		
設置年度	令和4年(小・中) 令和6年(高1より順次) 令和8年(保・幼)		
TEL	(0798)61-3630		
FAX	(0798)53-1070		
所在地	〒663-8001 西宮市田近野町10-45		
交通機関	阪急電鉄「仁川」「逆瀬川」より 阪急バスで「新明和前」下車 (バス停から1分)		



<学級数・幼児児童生徒数>

学 部	保・幼	小	中	高	合 計
学級数	8	18	13	19	58
人 数	27	71	51	103	252

<地域別幼児児童生徒数>

【小学部・中学部・高等部】西宮市 225名
 【保育相談・幼稚園部】27名
 西宮市 7名 伊丹市 2名 尼崎市 5名
 宝塚市 9名 川西市 2名 丹波篠山市 2名

児童生徒数は令和8年5月1日現在

<主な学校行事>

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 1 学期 | 懇談会 防災避難訓練
学校説明会 オープンスクール 遠足 |
| 2 学期 | 体験入学 懇談会 防災避難訓練
宿泊学習 修学旅行 遠足 体育行事 |
| 3 学期 | 懇談会 防災避難訓練 |

<校章の由来>

黄色のひし形は輝きを、緑色のMはむこがわを、ピンクのハートは自分らしさを表している。むこがわ特別支援学校で輝く生徒たちをイメージして、Mの上にひし形を配置している。また、自分らしさを表すハートには、地域から愛される学校になってほしいという願いが込められている。

<学校名について>

本校近くに武庫川が流れており、緑豊かな河川敷がある。所在地をイメージしやすく、近隣校との混同を避けることができる名称として「むこがわ特別支援学校」とした。また、聴覚障害の保育相談部、幼稚園の子どもたちにも親しみやすい表記にした。

<校訓>

自分らしく学び 自分らしく輝き 自分らしく翔く

<学校教育目標>

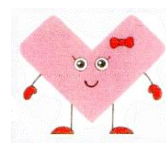
幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに基づき、自立や社会参加にむけてもてる能力と可能性を最大限に伸ばす適切な指導と支援を行い、「自分らしく」生き抜く力を育成する。

【地域でのセンター的機能等】

- ・教育相談
園や学校の集団の中で生じる不安や心配事等、生活面や学習面についての教育相談活動を行っている。
- ・巡回相談
子どもの育ちや発達について、集団の中での支援の方法等、巡回相談活動を行っている。



職業家庭（中学部）





兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校

校長 足立 昭吾 **設置学部** 幼・小・中
教頭 大上 高広 **対象障害** 聴覚障害 (幼・小・中)
 知的障害 (小・中)

設置年度 昭和 23 年 **スクールバス** 有 (共用)

TEL (0796) 22-2114 **寄 宿 舎** 有

FAX (0796) 24-5216 **隣接施設** 無

所在地 〒668-0047 豊岡市三坂町 2-9

E-mail toyooka-shn@hyogo-c.ed.jp

交通機関 JR 山陰線「豊岡駅」下車
 (徒歩 20 分) 駅前通り東へ 500m
 豊岡市役所から南へ 700m



<学級数・幼児児童生徒数>

学部	幼稚部	小学部	中学部	合計
学級数	3	8	5	16
人数	4	16	15	35

<地域別幼児児童生徒数>

豊岡市 32名 養父市 1名 丹波市 1名
 京丹後市 1名

幼児児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

<主な学校行事>

1 学期	入学式 自然体験活動 居住地校・園交流 社会見学 出石特別支援学校との交流
2 学期	居住地校・園交流 秋の遠足 修学旅行 (中) とよちようニコニコデイ オープンスクール
3 学期	入学説明会 お別れ会 卒業式 閉校式

<校章の由来>

中央に兵庫県立豊岡聾学校 (Hyogo Toyooka Rogakko) の頭文字を組み合わせ、伸び行く学校をイメージして末広がりの形に図案化してある。そのまわりに月桂樹の葉を配して本校の栄光を祈念している。ー昭和 26 年制定ー

<校 訓>

希望 努力 自立

<本校の特色>

- ・平成 28 年度より、聴知併置校となり、主に知的の障害のある子どもたちの知的障害部門を開設する。
- ・「みる」「きく」「伝える」「振り返る・気付く」「分かり合う」の視点によるコミュニケーションの力を培う。
- ・交流及び共同学習や地域交流を進め、相互理解を深め「心のバリアフリー」を育む。

【地域でのセンター的機能等】

- 聴覚障害の相談 (対象地域：但馬・丹波)
 → 豊岡聴覚支援センター
 - 乳幼児教育相談 (就学前)
 - 教育相談 (小学生～高校生)
 - 通級指導教室 (難聴) 来校と訪問による指導
- ことば、発達の相談 → 支援部
 教育相談 (就学前～高校生)
- 就学に関する情報提供
- 市町と連携した学校園への訪問相談、研修協力
 但馬内 3 市 2 町で「聞こえとことばの相談」を開催
- 研修会等の開催
 - 難聴児担当者連絡会 (5 月)
 - 保健師対象研修会 (6、11 月)
 - 保育士対象研修会 (7 月)
 - 難聴児サマースクール (7 月)
- 関係機関との連携
 - 但馬地区特別支援学校ネットワーク担当者会
 - 兵庫県聴覚特別支援学校ネットワーク会議
 - 丹波 Link

<令和 7 年度の進路状況>

【幼稚部】 2 名 … 本校小学部進学 1 名
 他校小学部進学 1 名
 【小学部】 1 名 … 本校中学部進学 1 名
 【中学部】 4 名 … 他校高等部進学 4 名



校舍全景



兵庫県立あわじ特別支援学校

校長	黒田 勝	設置学部	幼・小・中・高
教頭	越智 隆史	対象障害	聴覚障害(幼・小・中) 知的障害(小・中・高)
設置年度	平成 23 年	高等部設置年度	平成 23 年
TEL	(0799) 22-1766	スクールバス	6 台
FAX	(0799) 25-2288	寄 宿 舎	無
所在地	〒656-0053	隣接施設	無
	洲本市上物部 2-1-17		

E-mail Awaji_shien@pref.hyogo.lg.jp
交通機関 「洲本高速バスセンター」より南西 2 km



<学級数・幼児児童生徒数>

学 部	幼稚部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	0	7	7	13	27
人 数	0	17	27	62	106

<地域別幼児児童生徒数>

洲本市 41名 南あわじ市 28名 淡路市 37名

幼児児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

<主な学校行事>

1 学期	春季遠足 体育祭 自然体験活動(小中) 修学旅行(高3)
	親子現場見学(高) 個別現場実習(高)
2 学期	秋季遠足 修学旅行(小5・6) 宿泊学習(高2)
	交流及び共同学習 修学旅行(中2・3) 学習発表会
3 学期	校外作品展 卒業式(高・小中)

<校章の由来>

海と山に囲まれ、恵まれた豊かな自然環境の中で、明るく元気に過ごす子どもたちをイメージしています。

中央の山の形は、あわじの頭文字の A を図案化しており、周りの波が優しく全体を囲んで見守っています。

<校 訓>

希望 自立

<本校の特色>

本校は平成23年4月に「兵庫県立淡路聴覚特別支援学校」と「兵庫県立淡路特別支援学校」との発展的統合により、「兵庫県立あわじ特別支援学校」として創立しました。

- ・個々のニーズに応じた指導
- ・交流及び共同学習、地域との交流の推進
- ・地域の特別支援教育のセンター的機能の推進
- ・キャリア教育の推進
- ・運動場全面芝生化

【地域でのセンター的機能等】

- (1) 本校での教育相談、地域(洲本市・南あわじ市・淡路市)に出向いての定期的な教育相談の実施
- (2) 聴覚障害児の早期発見と適切な支援
- (3) 保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校・高等学校からの依頼による本校職員の学校訪問、また幼児児童生徒とのかかわり方や指導内容等についての助言
- (4) 各市の学校生活支援教員、高等学校担当者の専門性向上に向けた研修への協力
- (5) 個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成協力
- (6) 保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校・高等学校の職員研修への講師派遣

<令和 7 年度の進路状況>

【中学部】 7 名			
・本校高等部進学	6 名	・在家庭	1 名
【高等部】 22 名			
・企業就労	8 名	・自立訓練	2 名
・就労継続支援 B 型	8 名	・生活介護	3 名
・就職待機	1 名		



交通安全教室(小学部・中学部)



体育祭(中学部演技)

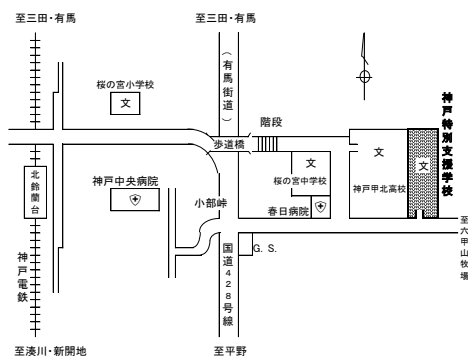


福祉サービス事業所合同説明会
(高等部)



兵庫県立神戸特別支援学校

校長	市川 将人	設置学部	小・中・高
教頭	月嶋 友昭	対象障害	知的障害 肢体不自由
	藤本 友美		
設置年度	昭和 53 年	スクールバス	7 台
TEL	(078) 592-6767	高等部設置年度	昭和 55 年
FAX	(078) 592-6768	寄 宿 舎	無
所在地	〒651-1144	隣接施設	無
	神戸市北区大脇台 10-1		
E-mail	Kobe_shien@pref.hyogo.lg.jp		
交通機関	神戸電鉄「北鈴蘭台駅」東へ徒歩 15 分		



＜学級数・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	16	16	23	55
人 数	62	58	95	215

*訪問学級（高等部）1名を含む

＜地域別児童生徒数＞

（神戸市）北区 215名

児童生徒数は令和8年5月1日現在

＜主な学校行事＞

1 学期	学部参観 運動参観 宿泊学習（小） 現場実習（高2・3） オープンスクール
2 学期	修学旅行（小・中・高） 学部参観（学習発表会 小・中 販売学習 高） 現場実習（高2・3） 自然体験学習（中2） オープンスクール
3 学期	学部参観 卒業式

＜校章の由来＞

一つの円の中から創り出された形で養護学校の「養」の字を金色で浮き彫りにし、その背景に、いぶし銀で兵庫県の「兵」の字をデザインしている。尖鋭（きびしさ）や円弧（人間性の豊かさ）で描かれた「養」「兵」の文字は、児童生徒・保護者・教職員らに「明るく」「仲良く」「元気よく」と呼びかけている。

＜校 訓＞

明るく、仲よく、元気よく

＜本校の特色＞

上記の校訓のもと、小学部・中学部・高等部・訪問教育部の連携の上、児童生徒の発達段階に応じた教育指標「つきたい力」を設定し、系統的なキャリア形成支援に向け、教育活動の活性化を図っています。

【地域でのセンター的機能等】

○ 教育相談について

随時受付けます。簡単に相談内容をお聞きし、相談日時等を調整させていただきます。また、各学校園へ訪問し巡回相談も行っています。窓口は教頭、支援部になっています。

○ 講師派遣・情報提供等について

- 1 研修会や学習会、相談会等の講師派遣や資料提供をします。
- 2 特別支援教育にかかわる情報提供をします。
- 3 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成・活用について支援します。

○ 北区地域自立支援協議会のこども部会、校区内の神戸市立中学校特別支援教育研究部会に参加し、情報交換を行いながら連携を図っています。

＜令和7年度の進路状況＞

【中学部】 23名

・本校高等部進学 22名 ・他校高等部進学 1名

【高等部】 27名

・企業就労 0名 ・職業訓練校 0名
 ・就労継続支援A型 1名 ・就労移行支援 3名
 ・就労継続支援B型 14名 ・自立訓練 0名
 ・生活介護 6名 ・その他 2名
 ・在宅 1名



小学部 宿泊学習
（しあわせの村）



中学部 野外学習
（紅葉見物）



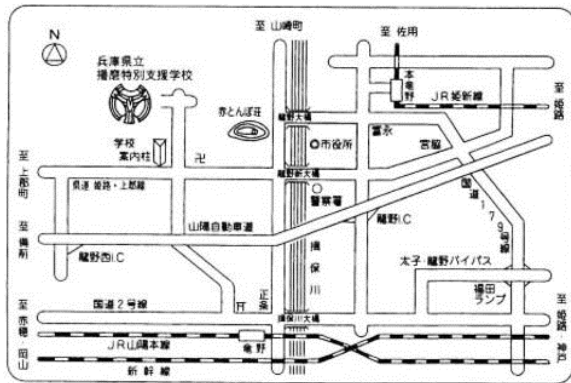
高等部 作業学習
（農園班）



兵庫県立播磨特別支援学校

校 長	大内 克明	設置学部	高
教 頭	柴田 肖文	対象障害	知的障害
設置年度	昭和 42 年		肢体不自由
TEL	(0791)66-0091	隣接施設	無
FAX	(0791)66-0092		
所在地	〒679-4002		

スクールバス	たつの市揖西町中垣内乙 135 番地 1
寄宿舎	2 台（知的障害教育部門の生徒専用）
E-mail	有（肢体不自由教育部門の生徒専用）
交通機関	Harima_shien@pref.hyogo.lg.jp
	JR 山陽本線「竜野駅」下車タクシー10 分
	JR 姫新線「本竜野駅」下車タクシー10 分



＜学級数・生徒数＞

学 部	高等部	合 計
学級数	19	19
人 数	103	103

＜地域別生徒数＞

明石市	4 名	三田市	1 名	加古川市	19 名
高砂市	4 名	姫路市	22 名	神崎郡	3 名
相生市	7 名	たつの市	22 名	赤穂市	3 名
宍粟市	5 名	揖保郡	10 名	赤穂郡	3 名

生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

前 期	入学式 対面式・部活動紹介 修学旅行（3 年） 野外活動 職場見学会（1 年） 寄宿舎夏まつり
後 期	体育祭・文化祭（隔年） 寄宿舎祭 卒業生との懇談会 芸術鑑賞会 卒業式
通 年	校外学習 職場体験実習 販売実習 保護者懇談会 オープンスクール 避難訓練

＜校章の由来＞

旧校名「播磨養護」の頭文字 H・Y を構成したもので、その中に揖水とこのとりを図案化している。

それは揖保川の清流に近い本校から元気よく羽ばたく若人の姿を象徴するものである。

＜校 訓＞

自立、友愛、創造

＜本校の特色＞

本校は、肢体不自由教育部門と知的障害教育部門を併置した高等部のみの特別支援学校である。

全寮制の肢体不自由教育部門では、普通科と総合ビジネス科を設け、進学・就労をめざした教育課程を編成している。

通学制の知的障害教育部門では、就業技術科を設け、就労を目指しキャリア教育を重視した教育課程を編成している。



マスコット
キャラクター
はりこん

【地域でのセンター的機能等】

○ 教育相談に関する取組

種類	学校見学	教育相談	巡回相談	「通級による指導」へのサポート
内容	施設・設備の見学と説明	発達・就学・進路に関する相談	自立活動、合理的配慮、支援計画などに関する相談	通級による指導実施校に対して協力校として支援相談
時期	通年随時	通年随時	通年随時	定期実施

○ 開かれた学校をめざす取組

- ・ オープンスクール・学校説明会
令和 8 年 5 月 20 日（水）～ 5 月 26 日（火）（中 3 生対象）
令和 8 年 6 月 22 日（月）～ 6 月 24 日（水）（中 1・2 生対象）
11 月 16 日（月）～ 11 月 17 日（火）（中 1・2 生対象）
- ・ 授業体験（知的障害教育部門）
令和 8 年 7 月 27 日（月）～ 7 月 30 日（木）（中 3 生対象）
- ・ 入学相談（肢体不自由教育部門）
令和 8 年 8 月 3 日（月）～ 8 月 4 日（火）（中 3 生対象）
- ・ 寄宿舎体験入舎 通年（要事前申込）

＜令和 7 年度の進路状況＞

【肢体不自由教育部門】 4 名	
・ 企業就労	2 名
・ 大学進学	2 名
【知的障害教育部門】 28 名	
・ 企業就労	18 名
・ 就労継続支援 A 型	3 名
・ 就労継続支援 B 型	3 名
・ 就労移行支援	1 名
・ その他	3 名



就業技術科：販売実習



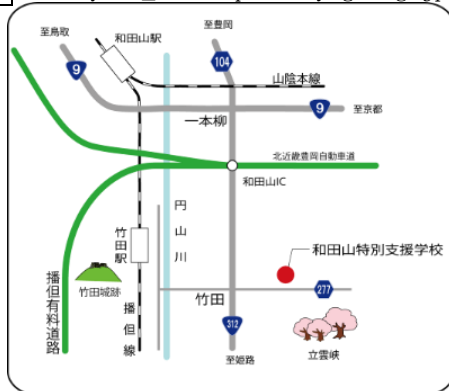
普通科・総合ビジネス科：家庭基礎



兵庫県立和田山特別支援学校

校長	藤原 香織	設置学部	小・中・高
教頭	古屋 光晴	対象障害	知的障害 肢体不自由
設置年度	昭和 54 年	高等部設置年度	平成 9 年
TEL	(079) 674-0214	スクールバス	4 台
FAX	(079) 674-0279	寄宿舎	有
所在地	〒669-5252 朝来市和田山町竹田 1987-1		

隣接施設	恵生園、真生園、立雲の郷等
交通機関	JR 播但線「竹田駅」から徒歩 10 分
E-mail	Wadayama_shien@pref.hyogo.lg.jp



＜学級数・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	7	5	8	20
人 数	15	20	32	67

＜地域別児童生徒数＞

朝来市	43 名	養父市	14 名	豊岡市	2 名
西宮市	2 名	加東市	1 名	西脇市	1 名
明石市	1 名	神崎郡	2 名	丹波市	1 名

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞ ※当初予定

1 学期	入学式・離任式	授業参観日	防災学習	交通安全教室
	学校見学 DAY	オープンスクール	校外学習（小・中）	
	トライやるデイズ（中 3）	校内実習・現場実習（高）		
2 学期	修学旅行（全）	なごみカーニバル	現場実習（高）	
	児童生徒会役員選挙	授業参観日	オープンスクール	
	進路学習（中）	校外学習（高）	交流及び共同学習（全）	
	ネット・スマホ安全教室	しごと体験フェア		
3 学期	防災体験学習	児童生徒会役員選挙	授業参観日	
	販売学習（中・高）	卒業式		



本校のキャラクター
「わとくん・わとくさん」



（和特 HP）

＜校章の由来＞

外のデザイン は和田山の W と竹田城跡を表す。
真ん中のデザイン は児童生徒の成長を願う若葉を表す。
内円の で和・円満を表す。

＜校 訓＞

学校大好き 仲良く 力いっぱい

＜本校の特色＞

- ・知肢併置、小・中・高一貫教育、寄宿舎併設
- ・児童生徒の主体的、対話的で深い学びを促す指導の工夫
- ・デジタル技術を駆使した生徒の「自立と社会参加」を促す探究的な学びの展開
- ・自立と社会参加の実現に向けたキャリア教育の充実
- ・地域資源や人材を活用し、協働した教育活動の推進
- ・体験型防災学習を中心とした「生きる力」を育む安全教育

【地域でのセンター的機能等】

地域の関係機関等と連携をとりながら、障害のある子ども、その保護者並びに学校園に対する支援を行っている。本校の専門性や施設・設備を生かした地域におけるセンターとしての役割を果たすように取り組んでいる。

①教育相談

幼児児童生徒や保護者、訪問による学校園への支援を行っている。内容は学習指導、生活指導、福祉、就学、進路、学校見学等多岐にわたる相談を行っている。個別の相談以外にも授業づくりや学級での指導などに関するコンサルテーションも行っている。

②学校園など教員への協力

個別の指導計画や教育支援計画の作成、特別的教育課程の編成、アセスメントの支援、障害に関する理解啓発、公開研修講座等、研修協力を行っている。

③但馬地区特別支援学校ネットワーク担当者会

但馬の特別支援学校 4 校で会議を開催し、「地域支援の連携・情報共有」「市町教育委員会との連携・協働」などの取組を進めている。

＜令和 7 年度の進路状況＞

【中学部】

- ・高等部進学 6 名

【高等部】

- ・企業就労 3 名
- ・就労移行支援（在宅）1 名
- ・就労継続支援 A 型 1 名
- ・就労継続支援 B 型 3 名
- ・生活介護 1 名



防災体験学習



作業学習



神戸市立青陽須磨支援学校

校長	大西 道代	設置学部	小・中・高
教頭	山下 政子	対象障害	知的障害 肢体不自由
	大谷 芳樹		
設置年度	平成 21 年	高等部設置年度	平成 21 年
TEL	(078) 793-1006	スクールバス	13 台
FAX	(078) 793-1007	寄宿舎	無
所在地	〒654-0155	隣接施設	無
	神戸市須磨区西落合 1-1-4		
E-mail	sess-se@kobe-c.ed.jp		
交通機関	地下鉄「名谷駅」下車西約 350m		



＜校章の由来＞

三つのS（青陽須磨支援の頭文字）をデザイン化し、小・中・高等部の子どもたちが支えあう姿をイメージしている。左側は水色で空を、中央は緑で豊かな大地を、右側はブルーで海を象徴する色となっている。

＜教育目標＞

- 一人ひとりの生命と人権を尊重する教育
- 自立と社会参加を目指し、生きる力を育む教育
- 発達の状況や障害の特性、個性に応じた教育

＜めざす学校像＞

- 安心できる環境（人・場所）があり、居心地の良さを感ぜられる学校
- 笑顔あふれ、夢を語り合い、自立に向けて学びを深められる学校
- 保護者に信頼され、地域の人たちに愛される学校

＜めざす子供像＞

- 一人ひとりに応じた自立と社会参加の力を身につけるため、意欲的に学ぶ子供
- 自分の持っている力を十分に発揮し、可能性に挑戦する子供
- 自分の気持ちや考えを豊かに表現する子供
- 仲間とともに学び、いきいき活動する子供
- 知・徳・体にわたる「生きる力」を育む子供

＜本校の特色＞

- 従来あった「青陽高等養護学校」を改め、小・中・高等部を設置する新たな特別支援学校として、平成21年にスタートした。
- 高等部は生徒の実態に合わせて、生活・社会・職業の3コース制をとっている。24年度より「肢体不自由部門」が開設された。

＜学級数・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	27	28	35	90
人 数	98	109	156	363

児童生徒数は令和8年5月1日現在

＜主な学校行事＞

1 学期	学校説明会 高等部春実習 自然体験学習（小5・中2）
夏休み	夏期集中実践講座（肢体部門・知的部門小学部） 高等部入学相談 進路夏期施設見学会
2 学期	学校説明会 修学旅行（小・中・高） 高等部秋実習 トライやる・ウィーク（中2） 学校祭



校舎全景（平成29年4月）

【地域でのセンター的機能等】

特別支援教育のセンター的機能の充実を図るために、以下のような活動を実施している。

- 通学区域学校園からの教育相談（来校）への対応及び学校訪問による支援
- 特別支援教育に関する研修活動や講師派遣（通学区域内幼稚園、小中学校、高等学校へ案内）
- 医療及び福祉関係機関や本校生徒の進路先等との連携、及び連絡調整

＜令和7年度の進路状況＞

【中学部】 56名	・本校高等部進学 53名
【高等部】 48名	・企業就労 11名 ・就労継続支援A型 5名 ・就労継続支援B型 20名 ・生活介護 7名 ・その他 5名



学校祭



神戸市立いぶき明生支援学校

校長 辻村 千代子
准校長 岩佐 秀樹
教頭 加藤 剛志

富澤 廣太

TEL (078)997-6311

FAX (078)997-6312

所在地 〒651-2243 神戸市西区井吹台西町 7-1

E-mail ibkm-se@kobe-c.ed.jp

交通機関 地下鉄「西神南」より 47 系統バス「井吹台西町 5 丁目」下車徒歩 5 分

設置学部 小・中・高
対象障害 知的障害
 肢体不自由

設置年度 平成 29 年
スクールバス 11 台 J タク 4 台

寄 宿 舎 無

隣接施設 無

＜校章の由来＞

子どもたちの生命感や息吹く姿を表す二葉と未来へはばたく翼を象徴するデザイン。施している 3 色の緑・青・ピンクは、それぞれ若葉・空・西区の花などしこをイメージしている。

＜学校目標＞

- 理念：笑顔があふれ 夢を育み 明日を生きる
- ・子どもの人権を尊重し、一人一人が主役となる学校
 - ・子どもの自立に向けて、生きる力を育む学校
 - ・子どもが未来を、保護者や地域と共に描く学校

＜本校の基本方針＞

一人一人のニーズへの対応

- ・的確な実態把握に基づいた「個別の指導計画」を立案し、一人一人のニーズや実態に応じた指導・支援を行う。
- ・一人一人のニーズに応じた指導、支援を推進するために「個別的教育支援計画（ネットワークプラン）」を活用する。

助け合い、学び合う教職員の育成

- ・専門性の向上をめざし、学部部門を超えて、OJT を活用した校内研修等を行う。
- ・自ら考え、主体的かつ協働的に学ぶ児童生徒の育成をめざし、日々の授業や研修等を通じて授業改善を行う。

安全で安心して学べる環境づくり

- ・児童生徒の人権を大切にし、話を丁寧に聞き、気持ちに寄り添った指導・支援を行う。
- ・安心・安全に学べる学習環境を整えるとともに、自他の心と体を大切にする教育を行う。

学部・部門間および地域や関係機関との円滑な連携

- ・交流及び共同学習を通じて様々な人と関わる機会を設定し、地域社会の中で生きる力を育成する。
- ・保護者や関係機関と連携し、スムーズに学校生活が送れるよう支援する。
- ・地域の特別支援教育のセンター校として、地域の特別支援教育の充実に努める。

【地域でのセンター的機能等】

・教育相談

地域の特別な教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒に教育相談を行っています。

・学校公開等

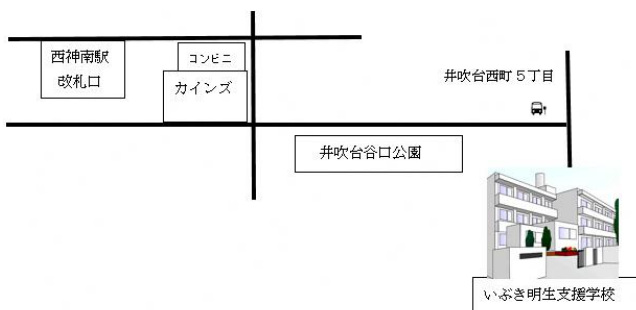
学校公開や就学相談を行います。

・研修協力

小中学校の特別支援教育に携わる教職員を対象とした研修を行っています。

・交流及び共同学習

居住地校交流や学校間交流を行っています。また、各学部で地域の方との交流の機会を設けています。



＜学級数・幼児児童生徒数＞

学 部	幼稚部	小学部	中学部	高等部	訪問教育部	合計
学級数	0	19	20	17	2	58
人 数	0	126	152	169	4	451

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

- 1 学期 入学式 歓迎会 宿泊学習（小 5・中 2） 学校説明会
スクーリング（訪問） 現場実習（高 2・3）
2 学期 修学旅行（小・中・高） 現場実習（高 3・高 2 一部）
学校説明会 トライやる・ウィーク（中 2） 学校祭
3 学期 現場実習（高 2 一部・高 1 一部） 卒業式



上空から見た本校校舎

＜令和 7 年度の進路状況＞

【中学部】 47 名 ・本校高等部進学 45 名 ・他校進学 2 名

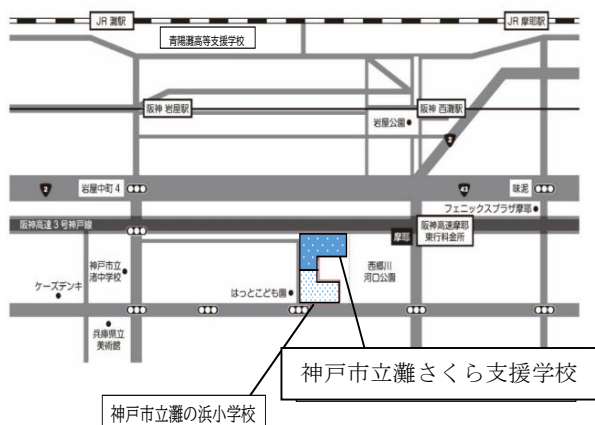
【高等部】 56 名

- ・就労 8 名 ・就労継続支援 A 型 0 名
- ・就労継続支援 B 型 25 名 ・生活介護 14 名
- ・就労移行支援 1 名 ・自立訓練 1 名
- ・進学 2 名 ・その他 5 名



神戸市立灘さくら支援学校

校長	小林 健治	設置学部	小・中・高・訪問
教頭	徳丸 弥生	対象障害	知的障害（小・中） 肢体不自由（小・中・高）
	東元 友祐		
設置年度	令和3年	スクールバス	13台
		寄 宿 舎	無
TEL	(078)802-1200	隣接施設	神戸市立灘の浜小学校
FAX	(078)802-1205		
所在地	〒657-0855 神戸市灘区摩耶海岸通 2-2-2		
E-mail	ndsk-se@kobe-c.ed.jp		
交通機関	JR 灘駅・摩耶駅から徒歩約 15 分 阪神岩屋駅・西灘駅から徒歩約 10 分		



＜校章の由来＞

灘さくら支援学校の頭文字「N・S・S」をモチーフに全体を桜の花びらの形になるように、デザインしている。右上に伸びるような動きは、ともに学び ともに育ちゆく子どもたちをイメージしている。

グリーンは摩耶山、ブルーは灘の浜を表し、山と海に囲まれた桜の学校が、地域に根差した支援学校へと成長していくようにとの願いが込められている。

＜校 訓＞

ともに学び ともに育ち 自分らしく生きる

＜本校の特色＞

- (1) 灘の浜小学校の児童との相互理解を深め、交流及び共同学習を推進する。
- (2) 青陽灘高等支援学校とのつながりを考慮した教育活動を推進する。
- (3) 望ましい社会参加をめざし、一人一人に応じた自立活動の充実を図る。
- (4) 発達段階に応じた教育活動を推進し、学部経営の充実を図る。
- (5) 地域資源を活用し、安全で安心できる環境の整備や危機管理体制の充実を図る。
- (6) 保護者、地域、関係機関と連携し、地域における特別支援教育を推進する。

【地域でのセンター的機能等】

〈相談及び研修〉

- ・保護者を対象に教育相談を実施し、必要に応じて関係機関と連携して支援する。
- ・校区内の小中学校を対象に教育相談、研修を行う。
- ・全市の初任者研修の場として講師、会場を提供する。

〈物品等の貸し出し〉

- ・遊具や教具等の貸し出しを行う。

＜学級数・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部	訪問	合 計
学級数	36	19	8	4	67
人 数	127	71	19	7	224

児童生徒数は令和8年5月1日現在

＜主な学校行事＞

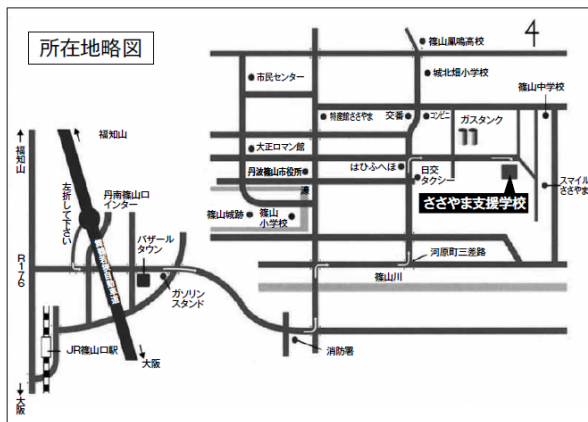
1 学期	入学式 体育発表会(小中知) キャンプ(小5・中2) 校外学習 体育発表会(小知肢) 前期現場実習(高)
2 学期	後期現場実習(高) 体育発表会(小中高肢) 修学旅行(小6・中3・高3) トライやる・ウィーク(中2) 文化発表会 校外学習
3 学期	校外学習 卒業式





丹波篠山市立ささやま支援学校

校長	依田 善裕	設置学部	幼・小・中・高
教頭	大野 圭一	対象障害	知的障害 肢体不自由
設置年度	昭和 49 年	スクールバス	6 台
高等部設置年度	平成 6 年	寄 宿 舎	無
TEL	(079) 552-5237	隣接施設	無
FAX	(079) 552-6222		
所在地	〒669-2300 丹波篠山市沢田 120-1		
E-mail	ss-sasayamayogo@school.sasayama.jp		
交通機関	JR 福知山線「篠山口」下車 神姫バス「下立町」下車東へ 400m		



＜学級数・幼児児童生徒数＞

学 部	幼稚部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	0	8	5	7	20
人 数	0	20	19	21	60

＜幼児児童生徒数＞

丹波篠山市 60名

幼児児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

1 学期	入学式 ささよう校外学習 ささよう運動会 中学部修学旅行 わくわくオーケストラ プール水泳 居住地校交流（通年）
2 学期	居住地校との行事交流 トライやる・ウィーク 小学部・高等部修学旅行 自然体験活動 ささよう音楽会 ささよう展
3 学期	新春ふれあい交流会 ささよう発表会 卒業式・修了式



【ささよう運動会】



【児童生徒会スローガン】

＜校章の由来＞

丹波篠山の「ササ」の葉 8 枚を扇状に組合せ、その上に「養」の字を配し、篠山養護学校を表した。120度の角度をもって末広がりになったササの葉は、常に原点に立ち返り、初心を忘れることなく、広がった将来に向かって大きくはばたくことを願っている。また、8 葉のササには、それぞれ、自主性・創造性・社会性・科学性・思考性・勤労性・現代性・国際性の伸展への願いがこめられている。校名を「ささやま支援学校」と変更しても、その願いを受け継ぎ、校章も継承している。

＜学校教育目標＞

夢と希望を抱き 心豊かに たくましく生きる子の
育成・支援 ～明るく いきいきと～

＜本校の特色＞

- ・先見性と計画性・継続性をもった幼・小・中・高の一貫性と連携のある教育を実践
- ・ふるさと地域人材や素材を活用し、多様な体験を通して、自己選択力、自己決定力を養うことを大切にする教育の実践とふるさと・キャリア教育の推進
- ・教職員相互・保護者とのパートナーシップを確立し、共通理解に立った教育の実践
- ・地域での特別支援教育のセンター的機能を発揮し個々のニーズに対応した教育の推進

【地域でのセンター的機能等】

- 特別支援教育コーディネーター（教育相談・自立活動・進路指導）を 3 名配置し、市内の学校園に対して訪問教育相談を実施したり、各種研修会や進路ガイダンス等を行ったりしている。
- 教育相談のリーフレットを市内学校園・公共機関・医療機関等に配布し、啓発に努めている。
- 丹波篠山市地域生活就労等支援ネットワーク会議、発達障害児等支援連絡会議等との連携充実を図っている。
- 居住地校等との交流
日常の教科等の交流や運動会・体育祭・文化祭・学校行事交流や、市内小・中学校・高等学校及び、近隣の小学校・特別支援学校との交流を実施している。
- 「ささよう展」等でのPR・交流
毎年10月末～11月初旬にかけて、校外施設（丹波篠山市立中央図書館）に協力いただき、作品展を開催。また、各種学校行事にも交流校園や地域の方を招待し、交流を深めている。

＜令和 7 年度の進路状況＞

【幼稚部】	1 名	・小学部進学	1 名
【小学部】	6 名	・中学部進学	6 名
【中学部】	4 名	・高等部進学	3 名
【高等部】	9 名	・企業就労	2 名
		・就労継続支援 A 型	1 名
		・就労継続支援 B 型	5 名
		・生活介護	1 名



尼崎市立あまよう特別支援学校

㊦かるく ㊦えをむいて ㊦ろこび ㊦まれる

校 長	渡邊 明美	設置学部	小・中・高
教 頭	笹倉 伸悟	対象障害	肢体不自由
設置年度	昭和 33 年	高等部設置年度	昭和 46 年
TEL	(06) 6482-1530	スクールバス	4 台、タクシー等
FAX	(06) 6482-1531	寄 宿 舎	無
所在地	〒660-0892	隣接施設	無

所在地 尼崎市東難波町 2 丁目 14 番 40 号
E-mail s01-kyoto@cen.ama-net.ed.jp
交通機関 JR 立花駅、阪急塚口駅、阪神尼崎駅下車
阪神バス「東難波町 2 丁目」、「尼崎総合医療センター」、「上下水道庁舎前」下車 徒歩 3 分



＜学級数・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	14	7	5	26
人 数	37	15	12	64

＜地域別児童生徒数＞ 尼崎市内 64 名

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

1 学期	入学式 新入生歓迎会（小・中・高） スポーツ大会 夏休み自立活動学習会（小・中・高） 自然体験活動（小） 修学旅行（中）
2 学期	トライやる・ウィーク（中）あまよう祭 宿泊学習（高） 修学旅行（高）
3 学期	卒業生を送る会（小・中・高） 卒業証書授与式



新校舎

※平成 31 年 1 月
西宮市の旧校舎から
尼崎市内の新校舎へ移転
校名を
尼崎市立あまよう
特別支援学校へ改称



あまよう
マスコット
キャラクター
「リッツ君」

＜校章の由来＞

開校当時（旧 田近野校舎）に小学部 6 学級、中学部 1 学級の計 7 学級で発足したことを記念して、尼崎市章をチューリップの花形にデザイン化したものを 7 個連結して丸く囲み、中央に養の文字を配した。校舎（旧 田近野校舎）での開校の感激とみんなで助け合っていく人間愛を授業に表現しようという意見の一致で作成された。

＜校 訓＞ 「自立と社会参加をめざし生きる力を育てる」

- めざす児童生徒像 ○主体的に学ぶ子
- 心豊かで思いやりのある子
- 心身ともにげんきな子

＜本校の特色＞

- ・自立活動の充実
- ・専門性の向上
- ・特別支援教育の推進
- ・交流及び共同学習の推進

【地域でのセンター的機能等】

（1）教育相談

① 校外支援（巡回教育相談）

- ・対象幼児児童生徒の様子を在籍している学級内で見ただ、担任教員、または学年の教員、委員会、全校教職員などに（その学校園の希望に合わせて）助言を行う。
- ・相談後、報告書を作成し、相談者在籍校長宛に送付する。

② 校内支援

- ・自立活動・支援部を中心に学部を越えた指導助言（自立活動を中心に）を行う。

（2）幼稚園・小・中・高等学校の教職員に対する研修

- ・特別支援教育や発達障害についての職員研修での指導助言
- ・本校研修会の公開（研究部）
- ・教材、教具の紹介、貸し出し
- ・夏の研修講座（市立幼小中高教員対象）

（3）関係機関との連携

- ・個別の教育支援計画に基づき、関係機関とのケースカンファレンスを必要に応じて実施する。（医療や福祉に関して、連携が必要な児童生徒については、各担任が窓口となって情報交換を行う。）

＜令和 7 年度の進路状況＞

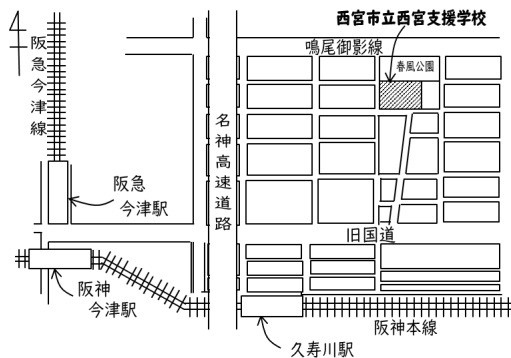
【中学部】	3 名	・高等部進学	3 名
【高等部】	8 名	・生活介護	7 名
		・就労継続支援B型	1 名





西宮市立西宮支援学校

校長	原田 綾女	設置学部	小・中・高
教頭	京田 薫	対象障害	肢体不自由
	高橋 邦久	高等部設置年度	昭和 48 年
設置年度	昭和 34 年	スクールバス	6 台、タクシー等
TEL	(0798) 23-3014	寄 宿 舎	無
FAX	(0798) 23-3017	隣接施設	無
所在地	〒663-8161 西宮市甲子園春風町2-29		
E-mail	yougos1@edu.nishi.or.jp		
交通機関	阪神電車「久寿川駅」より北へ徒歩 11 分 阪神電車「今津駅」より東へ徒歩 13 分		



＜学級数・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部	合計
学級数	11	5	9	25
人 数	24	13	21	58

＜地域別児童生徒数＞

西宮市北部 2 名 西宮市南部 56 名

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

- 1 学期 入学式 自立活動集中学習会 校外学習 学校説明会
オープンスクール トライやる・ウィーク
にしよう祭り 校内防災キャンプ
- 2 学期 修学旅行 小連体 中連体 学習発表会
阪神タイガース選手との交流 もちつき大会
- 3 学期 創立記念日 高等部入学者選考 卒業証書授与式



＜校章の由来＞

西宮の「ヤ」の文字三つ、養護のY・O・Gの頭文字を組み合わせて
創案、昭和36年2月1日に制定した。以来、2月1日を本校創立記
念日としている。

＜学校教育目標＞

- ◇自立と社会参加を可能とする共生社会を目指して、
一人一人のニーズに応じた教育を実践し、
自分らしく ともに 生きる力をはぐくむ
～チーム「にしよう」が機能し、
子供達のいのち輝く教育実践の具現化を図る～

＜ 沿 革 ＞

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| ◇S34年 開校 | ◇H17年 オープンスクール |
| ◇S35年 スクールバス配置 | ◇H19年 市職員として看護師配置 |
| ◇S35年 学校給食開始 | ◇H20年 わくわくオーケストラ教室開始 |
| ◇S36年 中学部設置 | ◇H21年 ブックフレンド事業（図書整備） |
| ◇S38年 校歌誕生 | ◇H22年 宮水ジュニア講座参加 |
| ◇S40年 校旗制定 | ◇H23年 耐震補強工事開始 |
| ◇S44年 介助員制度発足 | ◇H24年 スクールバス 5 台 |
| ◇S48年 プール完成 | ◇H25年 耐震補強工事終了 |
| ◇S48年 高等部設置 | ◇H26年 スクールバス 3 台 |
| ◇S50年 スクールバス 4 台 | ◇H28年 民営化 |
| ◇S51年 学校間交流開始 | ◇R 1年 仮設校舎利用開始 |
| わたしたちの願い
(第 1 号) | ◇R 3年 スクールバス 6 台民営化 |
| ◇S54年 養護学校義務化 | ◇R 7年 旧日崎養護学校 |
| 校内療育キャンプ開始 | 校舎へ仮移転 |
| ◇H 5年 看護師による医療
的なケア実施 | ◇R 3年 新校舎移転 |
| 単独献立開始 | 校名変更 |
| ◇H 7年 地域イントラネッ
ト事業完了 | ◇R 4年 訪問教育実施 |
| ◇H15年 トライやる・ウィーク開始 | 校内防災キャンプ開始 |
| | 市に指導医と指導的看護師配置 |
| | 看護師を市内小中学校へ派遣 |
| | 介助員による医療的ケア認定特定行為業務開始 |
| | ◇R 8年 介助員の小中学校での兼務開始 |

【地域でのセンター的機能等】

◆センター的機能として

- ① 幼・小・中・義務教育・高等学校等の教員への支援機能
- ② 特別支援教育に関する相談・情報提供機能
- ③ 幼・小・中・義務教育・高等学校等の教員に対する研修協力機能
- ④ 地域の障害のある児童生徒等へ施設設備等の提供機能
- ⑤ 教育相談・巡回相談

個別の指導計画や特別な教育課程の編成についての指導助言、効
果的な教育方法についての指導助言、新しい自立活動補助具やICT
機器等の紹介、専門家（OT、PT、ST、小児科、精神科、小児神経科、
整形外科など）につなぐべき教育的支援についての助言

- ⑥ 看護師・介助員を幼・小・中学校等へ派遣
- ⑦ 他機関との連携

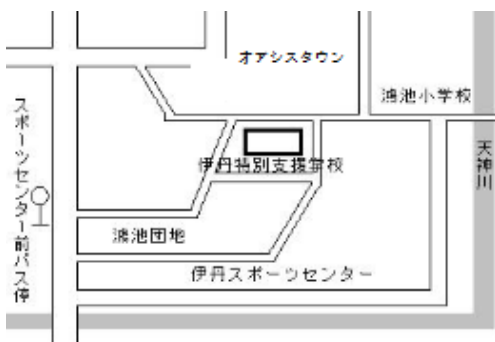
＜令和 7 年度の進路状況＞

【中学部】	11 名	・高等部進学	11 名
【高等部】	4 名	・生活介護	4 名



伊丹市立伊丹特別支援学校

校 長	八 束 伸 明	設置学部	小・中・高
教 頭	嶋 本 浩 士	対象障害	肢体不自由
設置年度	昭和 47 年 (1972 年)		
高等部設置年度	昭和 52 年 (1977 年)		
TEL	(072) 783-5436	スクールバス	9 台
FAX	(072) 783-5477		(福祉タクシーを含む)
所在地	〒664-0006	寄 宿 舎	無
	伊丹市鴻池1-8-6	隣接施設	無
E-mail	y_itami@itami.ed.jp		
交通機関	JR「伊丹駅」、阪急「伊丹駅」より市バス 「スポーツセンター前」下車徒歩5分		



＜学級数・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	4	5	5	14
人 数	9	11	10	30

＜地域別児童生徒数＞

伊丹市 30名

児童生徒数は令和8年5月1日現在

＜主な学校行事＞

1 学期	整形健診 療育相談 課題学習相談 学校見学会 校外学習 進路説明会 からだの学習会 林間学校
2 学期	整形健診 療育相談 課題学習相談 修学旅行 学習発表会
3 学期	療育相談 卒業式 児童生徒会役員選挙



高等部
さつまいも苗植え

＜校章の由来＞

三重円は智・愛・勇を持って将来に伸びる様子を示している。

＜学校教育目標＞

豊かな心、たくましく生きる力

めざす児童・生徒像

「明るく (明朗)」

「やさしく (誠実・協力)」

「たくましく (自己実現・自主自立)」

＜本校の特色＞

- ① 児童生徒の実態把握を適切に行い、自立活動の充実や授業改善に務め、類型を意識したカリキュラムマネジメントの推進を行っている。
- ② 卒業後の進路や生活を見据え、肢体不自由特別支援学校としての取組の充実と地域への発信に努めている。
- ③ 防災教育の実施や医療的ケアの体制整備など安全で安心な学校を作る。

【地域でのセンター的機能等】

◎居住地校交流、学校間交流の充実

小中学部では、個々の障害や健康状況に応じ、副次的な学籍を置いて居住地校交流を、高等部では近隣の高校や他市特別支援学校との交流を進めています。

◎地域でのセンター的機能

・専任教員が市内幼稚園、小中学校に巡回支援を市教委の要請で実施しています(R7 1件)。

・研修講座の開催(R7 全14講座、延べ参加714人)

・学校園等コンサルテーション

各学校園で特別支援教育を進めるための体制づくりや主体的な取組をサポートするため、学校園の状況に合った提案を計画的にしています(R7 こども園1園、幼4園

小11校、中2校に延べ345件の相談)。

・その他、随時、研修会講師派遣や教育相談等も実施しています。

＜令和7年度の進路状況＞

【小学部】2名	・本校中学部進学	2名
【中学部】4名	・本校高等部進学	4名
【高等部】4名	・就労継続支援B型	1名
	・生活介護	3名

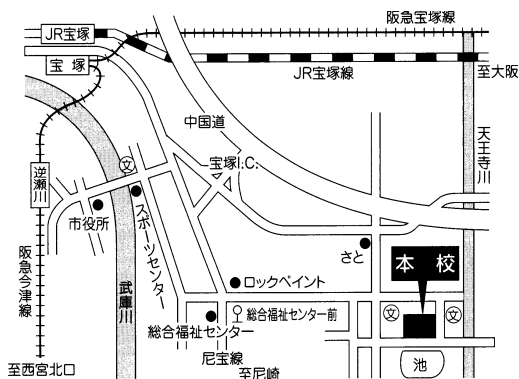


小学部 (林間学校)



宝塚市立たからづか支援学校

校 長	尾崎 朱	設置学部	小・中・高
教 頭	蒲田 晃啓	対象障害	肢体不自由
設置年度	昭和 48 年	高等部設置年度	昭和 56 年
TEL	(0797)84-0953	スクールバス	3 台
	5686	寄 宿 舎	無
FAX	(0797)81-0847	隣接施設	無
所在地	〒665-0822 宝塚市安倉中 6 丁目 1 番 3 号		
E-mail	tk051_yougo@sumire2.takarazuka.ed.jp		
交通機関	JR 阪急「宝塚駅」から阪神バス（市立病院経由）阪神甲子園・安倉団地方面行「安倉小学校前」下車、南東へ徒歩 2 分		



＜学級数・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	5	4	5	14
人 数	12	10	11	33

＜地域別児童生徒数＞

宝塚市	33 名
-----	------

＜主な学校行事＞

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

1 学期	運動会	心のバリアフリー推進活動	動作法デイキャンプ
2 学期	修学旅行（小・中）	学習発表会	オープンスクール
3 学期	研究発表会		

＜校章の由来＞

子どもたちが力強く生き抜くことを願って考案しました。Y は、前進をめざす三本の矢、子どもたちと学校（教職員）、保護者・地域を表しています。中央の円は、手と手をつなぎ協力する姿を背後の次第に大きくなる波紋は、自立と社会の資源が無限に広がり、子どもが社会に大きく羽ばたくことを希求しています。

＜学校教育目標＞

“一人ひとりの、自立と社会参加をめざし、生きる力を育み、可能性を伸ばす”

＜本校の特色＞

- ・本校児童生徒の主体性を尊重し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を行う。
- ・ライフサイクルを見通し、自立と社会参加の力と可能性を最大限に伸ばす。
- ・生命尊重を基本理念とし、安心して学ぶことのできる環境を整備し、健康の保持・増進に努める。
- ・体験活動や交流学习を推進し、人権を尊重し、共に生きる社会の構築を図る。
- ・保護者や地域の願いに応え学校を開き、支援のネットワークをつなぐ。

【地域でのセンター的機能等】

- ・市内特別支援学級（肢体不自由等）に在籍する児童生徒に関わる教育相談を行っています。
- ・市内特別支援教育に関わる教職員に対して相談、アドバイスをを行う「E du. サポート事業」を実施。
- ・毎年「動作法デイキャンプ」を実施し、本校児童生徒、市内特別支援学級に在籍する児童生徒、卒業生等が参加します。
- ・本校開催の特別支援教育に関わる研修会を公開しています。
- ・毎年 2 月初旬に研究発表会を実施し、公開授業や研究報告を行っています。
- ・教材教具の貸し出し及び施設設備の利用等も行っています。
- ・学校見学は随時行っています。

＜ 令和 7 年度の進路状況 ＞

【小学部】	1 名	・ 中学部進学	1 名
【中学部】	2 名	・ 高等部進学	2 名
【高等部】	4 名	・ 生活介護事業所	4 名





川西市立川西養護学校

校長	山戸 正啓	設置学部	小・中・高
教頭	新名 乃里子	対象障害	肢体不自由
設置年度	昭和 53 年	高等部設置年度	昭和 56 年
TEL	(072) 799-1456	スクールバス	3 台
FAX	(072) 799-5413	寄宿舎	無
所在地	〒666-0143	隣接施設	無
	川西市清和台西 2-3-81		
E-mail	kvp0024@kawanishi-hyg.ed.jp		
交通機関	阪急バス「清和台中央」より徒歩 10 分		



＜学級数・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	6	2	3	11
人 数	14	4	6	24

＜地域別児童生徒数＞

川西市 16 名 猪名川町 8 名

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

	学 校 行 事
4 月	●始業式 ●入学式 ●身体測定 ●内科検診 ●保護者説明会 ●家庭訪問週間
5 月	●心臓検診 ●耳鼻科検診 ●尿検査 ●かがやけ！からだデー
6 月	●眼科検診 ●歯科検診 ●かがやけ！からだデー ●介護等体験 ●学校説明会 ●わくわくオーケストラ教室
7 月	●期末懇談・清掃 ●進路学習会 ●終業式 ●スクールバス避難訓練 ●連合キャンプ
8 月	●施設見学 ●始業式 ●不審者対応訓練
9 月	●自立体験活動 ●わくわくデー ●教育キャンプ
10 月	●中学部・高等部修学旅行 ●高等部三校交流
11 月	●川養祭 ●高等部体験入学
12 月	●終業式
1 月	●始業式
2 月	●進路学習会 ●高等部入学選考 ●高等部体験入学
3 月	●小学部・中学部・高等部卒業証書授与式 ●修了式

＜校章の由来＞

輪郭は多田源氏の紋所で、川西市の市花である「りんどう」の中に障がい克服し、生きる喜びを味わい、たくましく伸びていく力が育つことを願ってふたばをあしらった。ふたばの基礎にすえられた文字は、養護学校の将来がゆるぎないものを示し、上に流れる川の文字は、豊かな自然に恵まれた川西市を象徴している。すべての児童・生徒が可能性を信じ自立を目指して、信頼と協調のもとに、たゆまぬ努力を続けていくことを、最大の目的として作った校章である。

＜学校経営方針＞

学校経営の基本理念	＜教育長訓示＞
「主体的に社会参画し、たくましく生き抜く人づくり」をめざし、 1 子ども一人ひとりのよさの伸長を図る教育活動の充実を第一義とします。 2 子どもの自己肯定感を育み、全教職員で学校創造を推進します。 3 家庭・福祉・医療・地域と連携し、センター校としての特徴を発揮します。	1 子どもたちを主体とした教育を推進する 2 学びの専門家として主体的に学び合う同僚性を高める 3 課題を先送りせず、将来を見据えた教育の在り方を協議する
＜学校教育目標＞	
児童生徒一人ひとりの障がいや心身の発達に応じた教育を行い、心豊かにたくましく生きる力を育む	



【地域でのセンター的機能等】

- 教育相談（巡回相談・来校相談）
- 研修会の実施
- 研修講師派遣
- 関係機関との連携

＜令和 7 年度の進路状況＞

【小学部】	1 名	・ 中学部進学	1 名
【中学部】	2 名	・ 高等部進学	2 名
【高等部】	0 名		



ひまわり畑を地域や卒業生、在校生が一緒になって活動しています



三田市立ひまわり特別支援学校

校 長	清山 孝利	設置学部	小・中・高
教 頭	脇田 耕平	対象障害	肢体不自由
	山部 優紀	スクールバス	4 台
設置年度	平成 27 年	高等部設置年度	平成 27 年
寄宿舎	無	隣接学校	富士小・富士中

中学部・高等部（代表）

TEL	(079) 562-7667	FAX	(079) 562-7668
所在地	〒669-1547 三田市富士が丘 3-25		
E-mail	himawari@mail01.area-sanda-hyogo.jp		
交通機関	神戸電鉄公園都市線フラワータウン駅下車 北西に徒歩 15 分		

小学部

TEL	(079) 562-8667	FAX	(079) 562-8661
所在地	〒669-1547 三田市富士が丘 1-12		



<学級数・児童生徒数>

学部	小学部	中学部	高等部	合計
学級数	2	1	3	6
人数	5	2	5	12
<地域別児童生徒数>		三田市 12 名		

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

<主な学校行事>

入学式、校外学習、修学旅行、からだの学習会、学習発表会、避難訓練、児童生徒会選挙、わくわくオーケストラ、地域社会共生フェスティバル、ひまわりスポーツフェスティバル、トライやるウィーク、卒業式

※交流校の行事に参加：運動会・体育大会・音楽会・文化祭・創作祭・農業祭など



中学部体育大会交流（併設校との交流及び共同学習）

<校章の由来>

満開のひまわりの花・実をイメージしている。「ひ」をデザインした三本線は小学部・中学部・高等部を表し、また上部の二葉は、小さな芽生えをはぐくむことにより、未来に向かって飛翔する翼となるという思いを表現している。児童生徒に三田の地でたくましく生きぬく力を身につけてほしいという願いが込められている。

<校訓>

「共生」 日常の交流をととして、多様なあり方を認め合い高め合う。
「挑戦」 個々に応じた段階的な目標の達成に向け、挑戦する。
「自敬」 自分らしさをいかし、社会に能動的に参画する。

<本校の特色>

人との豊かなつながりの中で、一人一人の自立と社会参加を目指し、たくましく生きる力を育成する。

- ・個に応じた教育課程の編成
- ・交流及び共同学習の充実
- ・キャリア教育、進路指導の充実
- ・安全、安心な学校づくりの推進
- ・開かれた学校づくりの推進
- ・三田市特別支援教育のセンター的機能の充実

【地域でのセンター的機能等】

- 三田市巡回相談に相談員として参加し、市内保幼小中学校園に訪問相談指導を展開
- 三田市特別教育サポートセンター等の相談会への相談員の派遣
- 市内外の研修会への講師の派遣
- 校内研修会を市内に公開
- からだの学習会に市内からの参加受け入れ
- 市内学校園、教育・福祉・医療・労働機関との連携、地域社会共生フェスティバル（事業所説明会）の開催
- 施設・備品の貸し出し

<令和 7 年度の進路状況>

【中学部】 3 名 本校高等部へ進学



三田市高校生議会（高等部）



明石市立明石養護学校

校長	高田 善彦	設置学部	小・中・高
教頭	芦田 真希	対象障害	肢体不自由
設置年度	昭和 46 年	高等部設置年度	昭和 59 年
TEL	(078)918-5935	スクールバス	有
FAX	(078)918-5936	寄宿舎	無
所在地	〒674-0051 明石市大久保町大窪2752-1	隣接施設	無

E-mail yougo-sh@edi.akashi.hyogo.jp
交通機関 JR「大久保駅」下車
神姫バス「養護学校前」下車



＜学級数・児童生徒数＞

学部	小学部	中学部	高等部	合計
学級数	9	6	5	20
人数	23	13	11	47

＜地域別児童生徒数＞

明石市 47名

児童生徒数は令和8年5月1日現在

＜主な学校行事＞

1 学期	入学式 チャレンジキャンプ 校外学習（高）（小高） 自立活動キャンプ トライやる・ウィーク（中2） 地域の高校との交流（高）
2 学期	校外学習（小低・中） 修学旅行（小・高） わくわくオーケストラ（中1） 学習発表会 お楽しみ給食
3 学期	お楽しみ給食 卒業生を送る会 卒業式

＜校章の由来＞

養護学校のローマ字表記のYOGOの頭文字のYに、市立学校の意をあらわして市章を重ねた意匠である。その校章の外郭はYを表現しながら、わが国で古くから毘沙門亀甲とよばれている形にまとめている。その意は、障害者が互いによく協力しあいながら社会からは、その人権がしっかりと守られるようにとの願いをこめて毘沙門亀甲の形にまとめた。毘沙門亀甲とは、正六角形が三個Y字形に集合した形をわが国で呼ぶ名である。

＜校訓＞

笑顔・健康・自立

＜学校教育目標＞

たくましく生きる力を育て、一人ひとりの個性が輝く教育を推進する

＜児童・生徒像＞

あかるい子 がんばる子 やさしい子

＜本校の特色＞

- ・関係者を交えた「個別の教育支援計画」の策定
- ・一人ひとりにあった教育課程編成
- ・理学療法士、看護師の知見も生かした授業づくり
- ・自立を見据えたキャリア教育の充実
- ・教師による自立活動の一環としての医療的ケアの実施
- ・産官学と連携したICTの活用

【地域でのセンター的機能等】

- ・市内の教育相談
- ・市内の校内研修会に講師派遣
- ・校内研修会を市内に公開
- ・自立活動キャンプに校外からの受け入れ
- ・教材・教具、検査器具の貸し出し
- ・135E ネットへの参加
- ・播磨東地域特別支援学校ネットワーク連絡会議への参加
- ・特別支援連携協議会への参加
- ・明石市立発達支援センターとの連携

＜令和7年度 卒業後の進路状況＞

【中学部より】・高等部進学 4名（うち本校入学4名）

【高等部より】・生活介護・就労継続支援B型 1名



チャレンジキャンプ夜のつどい



春見つけ



プール学習



加古川市立加古川養護学校

校 長	浅田 武成	設置学部	幼・小・中・高
教 頭	山口 望美	対象障害	肢体不自由
設置年度	昭和 40 年	高等部設置年度	昭和 60 年
T E L	(079) 428-2645	スクールバス	4 台
F A X	(079) 428-2577	寄 宿 舎	無
所在地	〒675-1214 加古川市上荘町見土呂 34-1	隣接施設	無
E-mail	kakogawa-yogo@kakogawa.ed.jp		
交通機関	JR 加古川線「厄神駅」下車北西 1.5 km 神姫バス「都染」停留所下車北 900m		

<校章の由来>

本校は、創立時、小学部・中学部の 2 学部から構成されていた。そして校章には、市章をモデルにして「小学部と中学部の円満を象徴した養護学校」としての願いが込められている。

<校 訓>

自立 友愛 健康

<本校の特色>

幼・小・中・高の一貫教育
加古川中央市民病院・こども療育センターとの連携
看護師のバックアップによる医療的ケアの充実
学校間交流・居住地校交流・兵庫大学交流・JC交流
温水プール

【地域でのセンター的機能等】

- ・教育相談 随時
- ・交流授業の受け入れ
- ・研修会ならびに研究会等の受け入れ
(市初任者研修、民生児童委員、幼稚園、小学校、中学校等)
- ・通常学級への支援 (市通級担当者との連携・市CO会議)
- ・支援学級、支援ルームへの支援 (市支援学級担任者会)
- ・教材・教具の貸し出し及び施設貸与
- ・市自立支援協議会 (相談支援部会、こども部会、しごと部会)
- ・市内小中学校医療的ケア児への看護師配置支援



<主な学校行事>

前期	入学式 新入生歓迎会 春のわくわく学習 校外学習 (中) 校内キャンプ (幼・小・中・高) 施設見学 (高) 農業委員との交流 加養まつり 火災避難訓練
後期	修学旅行 (小・高) 表現会 校外学習 (幼小・中) 書道会 トライやる・ウィーク JC交流会 (高) 兵庫大学交流 (高) 公開研究会 地震防災訓練 なかよし交流会 書道会 卒業式

<学級数・幼児児童生徒数>

学 部	幼稚部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	1	9	5	6	21
人 数	2	21	13	14	50

<地域別幼児児童生徒数>

加古川市	36 名	高砂市	7 名
稲美町	6 名	播磨町	1 名

幼児児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

<令和 7 年度の進路状況>

【中学部】	6 名	・高等部進学	6 名
【高等部】	3 名	・生活介護	3 名





兵庫県立上野ヶ原特別支援学校

校 長

竹内 雅彦

筆頭教頭

後藤 聡子

教 頭

大橋 勇

木村 めぐみ

木下 陽子

設置年度

昭和 28 年

TEL

(079) 563-3434

FAX

(079) 563-5379

所在地

〒669-1515 三田市大原梅の木 1546-6

E-mail

Uenogahara_shien@pref.hyogo.lg.jp

交通機関

JR、神戸電鉄「三田駅」下車
神姫バス「兵庫中央病院前」下車

設置学部

小・中・高

対象障害

知的障害・病弱

スクールバス

5 台

寄宿舎

無

＜校章の由来＞

春になるとツバメの雛たちが巣立ち、校舎の周りを元気に飛び回る。その姿は上野ヶ原の児童生徒と重なる。本校を巣立ち飛躍してほしいという願いを込めてuenoという文字で表現した。

＜校 訓＞

克 己

＜本校の特色＞

- ・県立学校では、県内唯一の病弱特別支援学校である。
- ・愛情のこもった教育支援を行っている。
- ・本校の他、分教室、訪問教育があり、訪問教育には在宅訪問学級、さくら訪問学級、兵庫中央病院訪問学級がある。
- ・個に応じて小中高等学校に準ずる教育も行っている。
- ・一人一人の教育的ニーズに応じた教育と支援を行っている。
- ・大学教員、心理カウンセラー等の専門家と連携し、指導の充実を図っている。

【地域でのセンター的機能等】

教育相談

- ・就学前の幼児や、小学校・中学校・高等学校等に在籍している児童生徒に関する相談を随時実施。
 - ・市内の保育園・幼稚園等、小・中学校等の依頼に応じて巡回教育相談を実施。
- ※電話等で教頭までお申し込みください。

研修協力

- ・関係市内の小・中学校職員や保護者を対象として公開研修会を実施。
- ・関係市主催の研修会や地域の学校の研修会の講師として職員を派遣。

ひかりの森分教室（県立ひょうごこころの医療センター入院者対象）

TEL

(078) 581-8620

FAX

(078) 581-8621

所在地

〒651-1242 神戸市北区山田町上谷上字登り尾 3

さくら訪問学級（医療福祉センターさくら入所者対象）

TEL

(079) 568-5336

FAX

(079) 568-5336

所在地

〒669-1357 三田市東本庄 1188

兵庫中央病院訪問学級・在宅訪問学級

問合せ等は本校まで

＜令和 7 年度の進路状況＞

【中学部】 8 名 ・ 高等部進学 8 名

【高等部】 21 名

- ・就労継続支援A型 1 名
- ・就労継続支援B型 7 名
- ・療養介護 3 名
- ・就労移行支援 2 名
- ・生活保護 6 名
- ・一般就労 1 名
- ・自立訓練 1 名

＜学級数・児童生徒数＞

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	12	10	15	36
人 数	33	21	55	109

＜地域別児童生徒数＞

三田市 61名	西宮市 21名	神戸市 13名
尼崎市 5名	他県内 8名	県外 1名

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

＜主な学校行事＞

1 学期	入学式 自然体験活動 上野スポーツ大会 さくら運動会 現場実習 小中高等との交流及び共同学習
2 学期	修学旅行 校外学習 上野創作祭 現場実習 宿泊学習 小中高等との交流及び共同学習 さくらふれあいコンサート
3 学期	作品展 児童生徒会選挙 卒業証書授与式



昭和 100 年
（「創作祭」高等部・10 月）

ダンス
（「上野スポーツ大会」
中学部演技・5 月）





姫路市立書写養護学校

校 長 小林 俊雄

教 頭 井上 正祥

設置年度 昭和 35 年

<本校> 肢体不自由

TEL (079) 266-0028

FAX (079) 266-9506

隣接施設 無

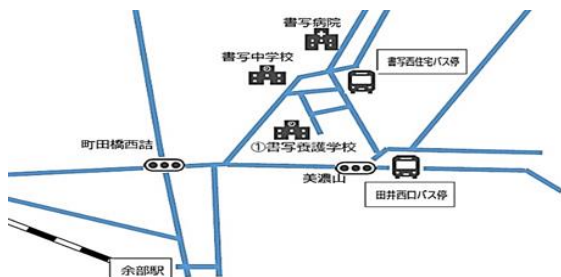
所在地 〒671-2203

姫路市書写台 3 丁目 148 番地 1

E-mail shosha-sh@himeji-hyg.ed.jp

交通機関 ・姫路駅より神姫バスにて書写西住宅（書写病院）行き、「終点」下車、徒歩 3 分

・JR 姫新線「余部駅」下車、北東へ徒歩 15 分



<ulu の木分教室（高岡病院入院者対象）> 病弱

設置年度 令和 2 年 4 月設置

TEL (079) 297-7600 **FAX** (079) 297-7600

所在地 〒670-0061

姫路市西今宿 5 丁目 3 の 8

交通機関 ・JR 姫新線 播磨高岡駅北東 370m



<学級数・児童生徒数>

学 部	小学部	中学部	高等部	合 計
学級数	9 (1)	7 (2)	12	28 (3)
人 数	21 (4)	18 (1)	27	66 (5)

() は分教室の学級数、人数 (外数)

<地域別児童生徒数> () は分教室

姫路市 66 名 (分教室：姫路市 1、淡路市 1、丹波市 1、たつの市 1、県外 1)

児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在

設置学部 小・中・高

対象障害 肢体不自由

病弱

高等部設置年度 昭和 47 年

スクールバス 5 台

介護タクシー 1 台

寄 宿 舎 無

<校章の由来>

Y を校訓「明るく」「正しく」「たくましく」の三本の剣にみため、中央の H は Humanism (人間尊重) にみため。

Y 形の三本の剣を、回転させていくと、養護・訓練の 4 つの目標を昇華し、さらに中心に位置する H は、より一層 Radical にエネルギーが増し、光と熱のある生命の火が、燃やされることになるであろう。

このことが、21 世紀へ確かな Human Generation を拓くことに通じる道なのである。

祝福されて、この世に生まれたが、ただ体に障害をもつが故に、社会から軽んじられ冷たくされることがあっても、自分から決して他人を軽んじることのなかった、真に人間としての「優しさ」「誇り」を身につけ生き抜く、人づくりの場でありたい。

<主な学校行事>

- 1 学期 新入生歓迎会 運動会 前期学校水泳 校外学習、オープンスクール
- 2 学期 修学旅行 (小 6・中 3・高 3) 後期学校水泳 トライやる・ウィーク (中 2) 校外学習 オープンスクール 学習発表会 体験入学 わくわくオーケストラ (中 1) オータムフェスティバル
- 3 学期 校外学習 学習のあゆみ展
- 年 間 居住地校交流 学校間交流 地域交流を実施 他市特別支援学校との交流

<校 訓>

明るく 正しく たくましく

<学校教育目標>

児童・生徒の自立と社会参加に向けた生きる力を育む

— 一人一人の「生命」輝く学び舎に —

<本校の特色>

- 児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握して、学びを充実させることにより、よりよく生きる、社会に出て活躍・活動できるように育てる。
- 姫路赤十字病院との業務委託による医療的ケア体制の充実と関係機関との連携により医療と教育、福祉を融合させた支援を行う。
- 準備する教育を充実させ、進学が可能な教育課程の編成を行う。
- 家庭・地域とともに歩む学校づくり (保護者との連携)
- 高岡病院に入院中の児童生徒に対する支援と教育の充実を図る。
- ICT 機器を活用した支援の充実として、遠隔授業や iPad を活用したコミュニケーションや課題教材の活用を進める。

【地域でのセンター的機能等】

- 肢体不自由教育に関する専門的指導を小・中学校の教員に行う。
- コーディネータが市内幼・小・中に出向き、肢体・知的・発達障害児の相談に応じる。(出張相談)
- 近隣の小学校、中学校、高等学校との学校間交流を計画し、授業や行事等で直接ふれあう機会を持ち心のバリアフリーを推進している。
- 副次的な学籍を設け、居住地校との交流をする。
- 中学 2 年生は、トライやる・ウィークで障害の程度にあわせて勤労体験や社会体験を実施している。
- 姫路市総合福祉通園センターの PT、OT、ST と連携し、身体の学習、摂食指導等を実施している。
- 毎週 1 回の指導医訪問診療を実施している。

<令和 7 年度の進路状況>

【中学部】 9 名 ・本校高等部進学 9 名

【高等部】 6 名 ・生活介護 5 名 ・在宅 1 名

中学部



高等部





兵庫県立のじぎく特別支援学校

校長	神保 元宏	設置学部	幼・小・中・高
教頭	多田 由紀子 橘田 佳紀	対象障害	知的障害・肢体不自由 病弱
設置年度	昭和 33 年	高等部設置年度	平成 20 年
TEL	(078) 994-0196	スクールバス	9 台
FAX	(078) 994-0197	寄 宿 舎	無
		隣接施設	無

■本校

所在地	〒651-2215 神戸市西区北山台 2-566-134
交通機関	神戸電鉄粟生線「緑が丘駅」下車東へ徒歩 8 分



■おおぞら分教室 (施設おおぞらのいえ入所者対象)

TEL	(078) 926-1811	FAX	(078) 926-1833
所在地	〒651-2181 神戸市西区曙町 1070		

■総合リハビリテーションセンター訪問学級

(県立リハビリテーション中央病院入院者対象)

TEL	(078) 964-5775
所在地	〒651-2181 神戸市西区曙町 1070

＜学級数・幼児児童生徒数＞

学部	幼稚部	小学部	中学部	高等部	合計
学級数	0	9	9	18	36
人数	0	20	27	85	132

＜地域別幼児児童生徒数＞

神戸市西区 71名 三木市 32名 小野市 29名

幼児児童生徒数は令和 8 年 5 月 1 日現在



中学部
自然体験学習



高等部
校内実習

＜主な学校行事＞

- 1 学期 修学旅行 (高 3) 自然体験学習 (中)
体験実習・校内実習 (高 2) 現場実習 (高 3)
- 2 学期 修学旅行 (小) 宿泊学習 (高 2)
職場施設見学 (高 1・2) 現場実習 (高 3)
学習発表会 トライやるデイズ (中 2) 校内作品展
- 3 学期 のじぎく冬の市 (販売学習) 職場施設見学 (高 1)
進路校外学習 (中) 校外学習 (小)
体験実習・校内実習 (高 2)

＜校章の由来＞

幼児児童生徒が県下全域から入学してきたことから、県花である「のじぎく」をテーマに校章とした。なお本校の校訓の精神のもと、のびのびと力強く育ちゆくことを願い、のじぎくの葉の豊かな繁茂にイメージを借りた。だれからでも愛され、いつまでも仲良く子どもと先生、子ども同士のつながりを保つという意味から、養護学校の「養」の字をのじぎくの葉で丸く囲んだ。葉が外向きになっている部分は、社会参加を意味し、内側にある部分は共に助け合っていく姿を表している。真理を求め、価値を創造し、英知と情熱をもって、個人の幸福と社会への貢献の意味をこめて、上部をあけた。

＜校 訓＞ 自 立

＜本校の特色＞

- ・知肢併置の幼小中高一貫校 (20年度に知肢併置の高等部設置、平成21年度より小中学部も知肢併置。23年 3 月に新校舎竣工)
- ・令和 5 年度より、総合リハビリテーションセンター訪問学級が、上野が原特別支援学校より本校に移管
- ・体験的な学習の充実
- ・キャリア教育の充実

【地域でのセンター的機能等】

- ・通学区域 (三木市、小野市、神戸市西区の一部 (押部谷中学校、桜が丘中学校、神出中学校各校区)) に在住する幼児児童生徒、保護者、教師の方々を対象に教育相談を随時実施し、さまざまな支援を行っています。
- ・本校の卒業生及び元在校生の方々を対象に教育相談や情報の提供等を行っています。

〈 問合せ先 〉 本校 支援研修部

＜令和 7 年度の進路状況＞

【中学部】 7 名

- ・本校高等部進学 7 名

【高等部】 29 名

- ・企業就労 4 名
- ・職業訓練校 4 名
- ・就労移行 0 名
- ・就労継続支援 A 0 名
- ・就労継続支援 B 10 名
- ・生活介護 8 名
- ・自立訓練 1 名
- ・その他 2 名



神戸市立友生支援学校

校長	榎原 直子	設置学部	幼・小・中・高・訪
教頭	中田 豊人	対象障害	知的障害 肢体不自由 病弱
	谷口 亜弥		
	吉村 和彦		
設置年度	昭和 31 年	スクールバス	7 台
高等部設置年度	昭和 35 年	寄宿舎	無
TEL	(078)576-6120	隣接施設	無
FAX	(078)576-6061		
所在地	〒652-0063 神戸市兵庫区夢野町 1-1		
E-mail	yuse-se@kobe-c.ed.jp		
交通機関	神戸市バス「夢野町2丁目」下車、徒歩 3 分		



みなと分教室(院内学級・訪問学級)

TEL・FAX	(078) 381-5366
所在地	〒650-0047 神戸市中央区港島南町 1-6-7 兵庫県立こども病院内

<学級数・幼児児童生徒数>

部 門	肢体不自由・知的障害				病 弱	合 計
学 部	幼稚部	小学部	中学部	高等部	小中高	
学級数	0	22	21	23	8	78
人 数	0	73	72	96	19	260

<主な学校行事>

1 学期	入学式 宿泊体験学習 (小・中) 現場実習 (高) 集中実践講座 (夏季休業中に実施)
2 学期	現場実習 (高) 修学旅行 (小・中・高) 文化発表会 トライやる・ウィーク (中)
3 学期	現場実習 (高) 卒業式

<校章の由来>

“友生とは友だちと生きる” という意味である。
「鳥でさえ友を求めて鳴く。まして人間どうして友を求めないことがあろうか」という詩経から採って、時の市教育委員会指導部長の志智嘉九郎氏が、「友生」と命名されたものである。

<めざす学校像>

- 「今」を大切にできる学校
- 「仲間との絆」を大切にできる学校
- 「地域とのつながり」を大切にできる学校

<学校教育目標>

- 健康で安全な生活を送る力を育てる。
- コミュニケーション力を高め、良好な人間関係を築く力を育てる。
- 基礎・基本を習得し、活用する力を育てる。
- 自立や社会参加に対する意欲を培い、豊かに生きる力を育てる。
- 自己選択、自己判断の機会を増やし、自己決定の力を育てる。

《みなと分教室(院内学級・わらび訪問教育部)》

- 院内学級……県立こども病院に長期入院している子供たちに、病院内の教室で授業を行います。
- わらび訪問教育部…神戸市内の病院に長期入院している、または、神戸市内在住で長期自宅療養している子供たちへの訪問教育を実施します(小学部・中学部・高等部)。

【地域でのセンター的機能等】

- 教育相談：教職員や保護者を対象に教育相談を行っています。
- 情報提供：特別支援教育に関する情報や障害福祉等の関係機関と連携するための情報提供をしています。
- 研修講師派遣：支援や進路に関する研修の講師を派遣しています。
- 教職員対象研修の実施：教材教具や自立活動についての研修を実施しています。

<令和7年度の進路状況>※本校分

【中学部】25 名

- ・本校高等部進学 25 名
- ・他校高等部進学 0 名
- ・高等学校進学 0 名

【高等部】29 名

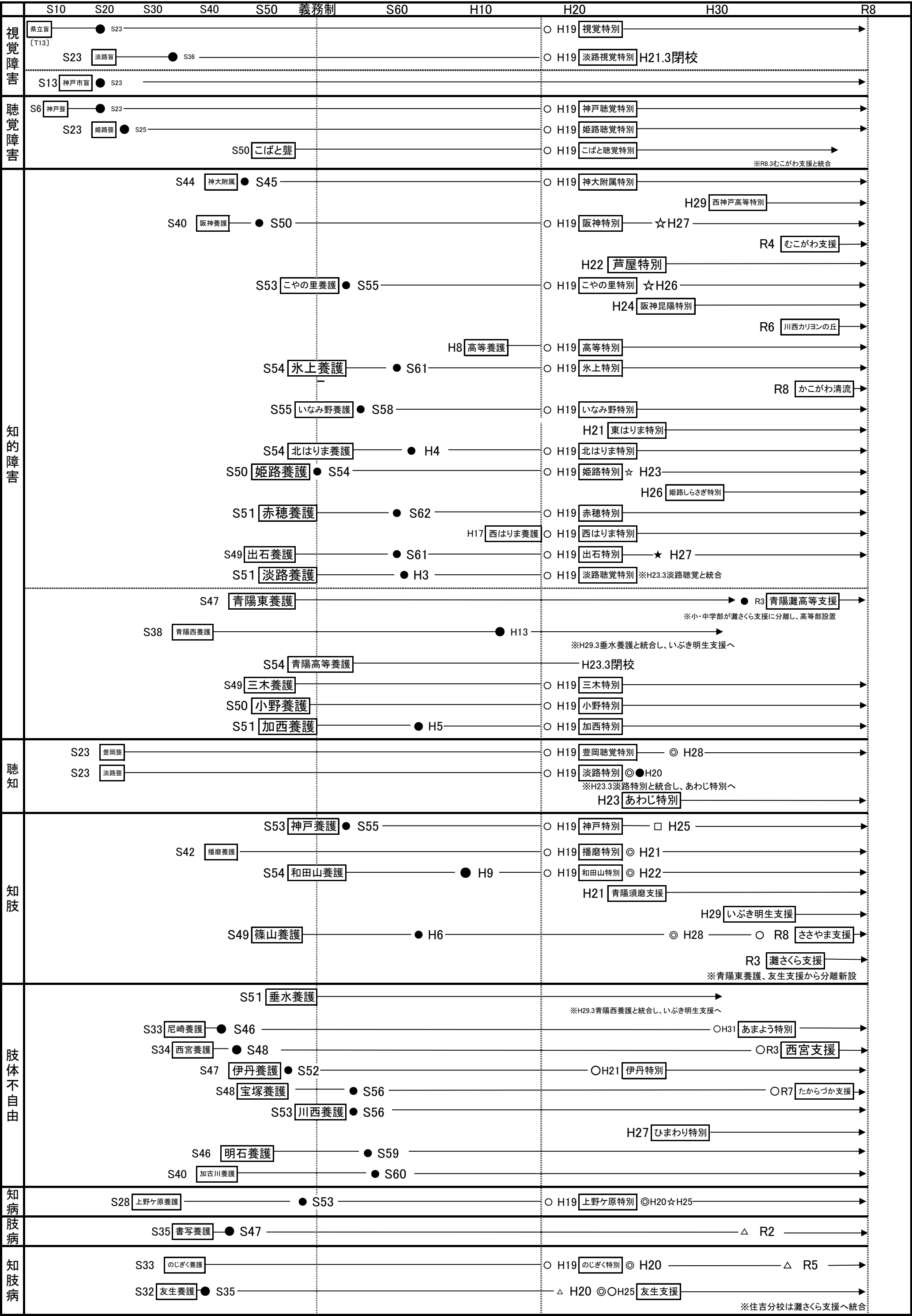
- ・生活介護 8 名
- ・就職 2 名
- ・自立訓練 1 名
- ・就労継続支援 A 型 1 名
- ・就労継続支援 B 型 15 名
- ・就労移行支援 1 名
- ・その他 1 名



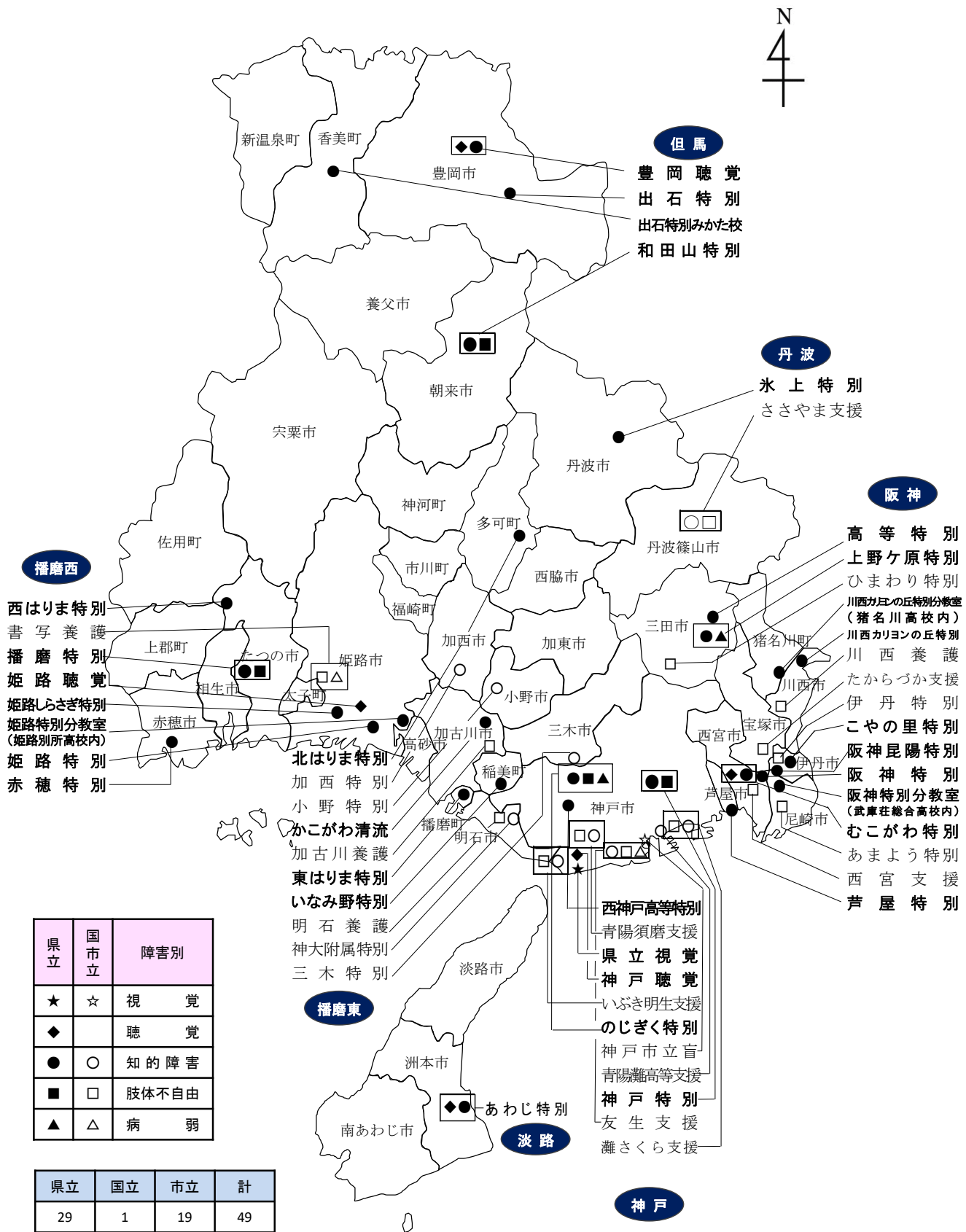
友生支援学校
平成 25 年完成

特別支援学校設置年表

●高等部設置 ○特別支援学校名称変更 ◎知的障害部門設置 □肢体不自由部門設置 △病弱部門設置 ☆分教室 ★分校



特別支援学校設置状況図



関係機関等

(1) 更生相談所、こども家庭センター、発達障害者支援センター

障害のある方への福祉向上を図るため、各種の相談や必要な指導・支援等を行う機関です。

名 称	郵便番号	所 在 地	電 話 番 号	所 管 区 域
兵庫県立 身体障害者更生相談所	651-2134	神戸市西区曙町1070 兵庫県立総合リハビリテーションセンター内	078-927-2727	神戸市を除く兵庫県内全域
神戸市 障害者更生相談所	650-0016	神戸市中央区橘通3-4-1 神戸市立総合福祉センター3F	078-361-2340	神戸市全域
兵庫県立 知的障害者更生相談所	651-0062	神戸市中央区坂口通2-1-1 兵庫県福祉センター3F	078-242-0737	神戸市を除く兵庫県内全域
兵庫県 中央こども家庭センター	673-0021	明石市北王子町13-5	078-923-9966	加古川市、高砂市、稲美町、 播磨町
洲本分室	656-0021	洲本市塩屋2-4-5 洲本総合庁舎内	0799-26-2075	洲本市、南あわじ市、淡路市
兵庫県 尼崎市児童相談所	661-0974	尼崎市若王寺2-18-7 あまがさき・ひと咲きプラザ内	06-6480-8612	尼崎市
兵庫県 西宮こども家庭センター	662-0862	西宮市青木町3-23	0798-71-4670	西宮市、芦屋市
兵庫県 川西こども家庭センター	666-0017	川西市火打1-12-16 キセラ川西プラザ3F	072-756-6633	伊丹市、宝塚市、川西市、 三田市、猪名川町
丹波分室	669-3309	丹波市柏原町柏原688 柏原総合庁舎内	0795-73-3866	丹波篠山市、丹波市
兵庫県 加東こども家庭センター	679-0212	加東市下滝野1269-2 加東市元滝野庁舎2F	0795-27-8250	西脇市、三木市、小野市、加西市 加東市、多可町
兵庫県 姫路こども家庭センター	670-0092	姫路市新在家本町1-1-58	079-297-1261	姫路市、相生市、赤穂市、宍粟市、 たつの市、市川町、福崎町、 神河町、太子町、上郡町、佐用町
兵庫県 豊岡こども家庭センター	668-0063	豊岡市正法寺446	0796-22-4314	豊岡市、養父市、朝来市、 香美町、新温泉町
神戸市 こども家庭センター	652-0862	神戸市兵庫区上庄通1-1-27	078-599-7300	神戸市
明石市 明石こどもセンター	674-0068	明石市大久保町ゆりのき通1-4-7	078-918-5097	明石市
兵庫県立 こども発達支援センター	674-0074	明石市魚住町清水2744	078-949-0902	兵庫県全域（市町窓口）
ひょうご発達障害者支援センター クローバー	671-0122	高砂市北浜町北脇519	079-254-3601	明石市、加古川市、高砂市、稲美町、 播磨町、洲本市、南あわじ市、淡路市
ひょうご発達障害者支援センター クローバー芦屋ランチ	659-0015	芦屋市楠町16-5	0797-22-5025	尼崎市、西宮市、芦屋市
ひょうご発達障害者支援センター クローバー加西ランチ	675-2321	加西市北条町東高室959-1	0790-43-3860	西脇市、三木市、小野市、加西市、 加東市、多可町、丹波篠山市、丹波市
ひょうご発達障害者支援センター クローバー豊岡ランチ	668-0065	豊岡市戸牧1029-11 北但広域療育センター 風内	0796-37-8006	豊岡市、養父市、朝来市、 香美町、新温泉町
ひょうご発達障害者支援センター クローバー宝塚ランチ	665-0035	宝塚市伊子志3丁目12-43	0797-71-4300	伊丹市、宝塚市、川西市、 三田市、猪名川町
ひょうご発達障害者支援センター クローバー上郡ランチ	678-1262	赤穂郡上郡町竹万329-1 あいここベース	0791-56-6380	姫路市、相生市、赤穂市、宍粟市、 たつの市、市川町、福崎町、 神河町、太子町、上郡町、佐用町

(2) 県健康福祉事務所

	名 称	郵便番号	所 在 地	電 話 番 号
県 健 康 福 祉 事 務 所	芦屋健康福祉事務所	659-0065	芦屋市公光町1-23	0797-32-0707
	宝塚健康福祉事務所	665-0032	宝塚市東洋町2-5	0797-72-0054
	伊丹健康福祉事務所	664-0898	伊丹市千僧1-51	072-785-9437
	加古川健康福祉事務所	675-8566	加古川市加古川町寺家町天神木97-1	079-421-9292
	加東健康福祉事務所	673-1431	加東市社字西柿1075-2	0795-42-9446
	中播磨健康福祉事務所	670-0947	姫路市北条1-98（福祉部門）	079-281-9207
	龍野健康福祉事務所	679-4167	たつの市龍野町富永1311-3	0791-63-5149
	赤穂健康福祉事務所	678-0239	赤穂市加里屋98-2	0791-43-2321
	豊岡健康福祉事務所	668-0025	豊岡市幸町7-11	0796-26-3655
	新温泉健康福祉事務所	669-6747	美方郡新温泉町三谷389-1	0796-82-3161
	朝来健康福祉事務所	669-5202	朝来市和田山町東谷213-96	079-672-6863
	丹波健康福祉事務所	669-3309	丹波市柏原町柏原688	0795-73-3776
	洲本健康福祉事務所	656-0021	洲本市塩屋2-4-5	0799-26-2036

こんな悩みがあったら……

自分の世界に没頭して
周りが見えなくなってしまう

初めてのこと、人、
場所が苦手

漢字の書き間違いが
多い

クラスメートと
うまく付き合える
ようになりたい

整理整頓、
物の管理が難しい

課題をなかなか
提出できない



心の教育推進センター（兵庫県立総合教育センター内）では、
特別な支援を必要とする幼児児童生徒に関する相談・支援事業を実施しています。

対象：兵庫県内の幼稚園・小学校・中学校・高等学校等の幼児児童生徒及び保護者等
※「ひょうご専門家チーム」派遣（通常の学級）については、神戸市立・私立学校園を除く。

日時：平日9:00～17:00（12/29～1/3を除く）

場所：心の教育推進センター（兵庫県加東市山国2006-107）
※「ひょうご専門家チーム」の助言は、派遣先の学校園で行います。

電話相談

0120-332-558

特別支援教育相談員が対応します。

来所相談（要予約）

医学・心理・教育に関する専門的知識
を有する相談員が対応します。
まず「電話相談」窓口にご連絡ください。
心理検査・来所相談の日程調整を行います。

※心理検査は、教育相談のためのもので
あり、診断を出すことはできません。
また、検査だけを受けるとことは
できません。

「ひょうご専門家チーム」派遣

LD・ADHD等に係る課題のある幼児児童
生徒（通常の学級在籍）が在籍する学校園
等に対し、医学・心理・教育に関する専門
的知識を有する相談員を派遣し、望ましい
教育的対応等について助言を行います。
「電話相談」窓口にご連絡ください。



問合せ先：心の教育推進センター（兵庫県立総合教育センター 心の教育推進課）
TEL:0795-42-6556

★表紙の作品について★（提供いただいたみなさん）

第 21 回みんなのアート展（令和 7 年度 兵庫県特別支援学校等作品展）

会期：令和 7 年 12 月 10 日（水）～14 日（日）

左上側 知事賞「キラベラ」

兵庫県立芦屋特別支援学校 高等部 3 年（当時）大野 芯平

右下側 市長会会長賞「ジャングルとコンクリートジャングルの狭間に」

神戸市立青陽須磨支援学校 高等部 3 年（当時）三木 祐太

特別支援教育…兵庫 令和 8 年度版

兵庫県教育委員会

兵庫県立総合教育センター

代表者 西田 健次郎

＜ 令和8年度 ＞ 兵 庫 県 内 の 特 別 支 援 学 校 一 覧

No.		学 校 名	設置学部	電話番号	FAX	郵便番号	所 在 地
1	視覚障害	兵庫県立視覚特別支援学校	幼小中高	(078)751-3291	(078)751-3254	655-0884	神戸市垂水区城が山4丁目2-1
2		神戸市立盲学校	幼小中高	(078)360-1133	(078)360-1136	650-0044	神戸市中央区東川崎町1丁目4-2
3	聴覚障害	兵庫県立神戸聴覚特別支援学校	保幼小中高	(078)709-9301	(078)709-0371	655-0013	神戸市垂水区福田1丁目3-1
4		兵庫県立姫路聴覚特別支援学校	保幼小中高	(079)284-0331	(079)222-5237	670-0012	姫路市本町68番地46
5	知的障害	神戸大学附属特別支援学校	小中高	(078)936-5683	(078)936-7114	674-0051	明石市大久保町大窪2752-4
6		兵庫県立西神戸高等特別支援学校	高	(078)991-2050	(078)991-5505	651-2204	神戸市西区押部谷町高和1557-1
7		兵庫県立阪神特別支援学校	小中高	(0798)52-6868	(0798)52-6176	663-8001	西宮市田近野町11-7
		分教室	高	(06)6431-6050	(06)6431-6556	661-0035	尼崎市武庫之荘8丁目31-1
8		兵庫県立芦屋特別支援学校	小中高	(0797)25-5311	(0797)25-5322	659-0034	芦屋市陽光町8-37
9		兵庫県立こやの里特別支援学校	小中高	(072)777-6300	(072)777-6301	664-0017	伊丹市瑞ヶ丘2丁目3-2
10		兵庫県立阪神昆陽特別支援学校	高	(072)773-5135	(072)777-1877	664-0027	伊丹市池尻7丁目108
11		兵庫県立川西カリヨンの丘特別支援学校	小中高	(072)769-6888	(072)795-1888	666-0152	川西市丸山台3丁目4-1
		分教室	高	(072)765-3255	(072)765-3265	666-0233	川辺郡猪名川町紫合字新林4-4
12		兵庫県立高等特別支援学校	高	(079)563-0689	(079)563-5632	669-1515	三田市大原梅の木1546-6
13		兵庫県立氷上特別支援学校	小中高	(0795)75-1737	(0795)75-1738	669-4274	丹波市春日町棚原3098-1
14		兵庫県立かこがわ清流特別支援学校	高	(079)428-3780	(079)428-3781	675-1221	加古川市平荘町山角467
15		兵庫県立いなみ野特別支援学校	小中高	(079)492-6161	(079)492-6162	675-1114	加古郡稲美町国安1284-1
16		兵庫県立東はりま特別支援学校	小中高	(079)430-2820	(079)430-2821	675-0148	加古郡播磨町北古田1丁目17-17
17		兵庫県立北はりま特別支援学校	小中高	(0795)32-3672	(0795)32-3967	679-1112	多可郡多可町中区間子602-1
18		兵庫県立姫路特別支援学校	小中高	(079)285-3765	(079)285-2039	671-0247	姫路市四郷町東阿保字下戸明476-1
		分教室	高	(079)253-0790	(079)253-0804	671-0223	姫路市別所町北宿303-1
19		兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校	小中高	(079)295-2200	(079)298-1060	670-0986	姫路市苫編688-58
20		兵庫県立赤穂特別支援学校	小中高	(0791)43-9266	(0791)43-9527	678-0252	赤穂市大津1305
21		兵庫県立西はりま特別支援学校	小中高	(0791)59-8277	(0791)58-1510	679-5165	たつの市新宮町光都1丁目3-1
22		兵庫県立出石特別支援学校	小中高	(0796)52-3565	(0796)52-3566	668-0204	豊岡市出石町宮内2-8
23		みかた校	小中高	(0796)95-1225	(0796)95-1227	667-1366	美方郡香美町村岡区川会33
24		神戸市立青陽灘高等支援学校	高	(078)871-1800	(078)871-1950	657-0846	神戸市灘区岩屋北町6丁目1-1
25		三木市立三木特別支援学校	小中	(0794)84-0830	(0794)89-8112	673-0521	三木市志染町青山7丁目1-8
26		小野市立小野特別支援学校	小中	(0794)66-2571	(0794)66-2570	675-1359	小野市昭和町458-1
27		加西市立加西特別支援学校	小中高	(0790)48-2304	(0790)48-3143	675-2213	加西市西笠原町172-50
28	聴知	兵庫県立むこがわ特別支援学校	保幼小中高	(0798)61-3630	(0798)53-1070	663-8001	西宮市田近野町10-45
29		兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校	幼小中	(0796)22-2114	(0796)24-5216	668-0047	豊岡市三坂町2-9
30		兵庫県立あわじ特別支援学校	幼小中高	(0799)22-1766	(0799)25-2288	656-0053	洲本市上物部2丁目1-17
31	知肢	兵庫県立神戸特別支援学校	小中高	(078)592-6767	(078)592-6768	651-1144	神戸市北区大脇台10-1
32		兵庫県立播磨特別支援学校	高	(0791)66-0091	(0791)66-0092	679-4002	たつの市揖西町中垣内乙135-1
33		兵庫県立和田山特別支援学校	小中高	(079)674-0214	(079)674-0279	669-5252	朝来市和田山町竹田1987-1
34		神戸市立青陽須磨支援学校	小中高	(078)793-1006	(078)793-1007	654-0155	神戸市須磨区西落合1丁目1-4
35		神戸市立いぶき明生支援学校	幼小中高	(078)997-6311	(078)997-6312	651-2243	神戸市西区井吹台西町7-1
36		神戸市立灘さくら支援学校	小中高	(078)802-1200	(078)802-1205	657-0855	神戸市灘区摩耶海岸通2-2-2
37		丹波篠山市立ささやま支援学校	幼小中高	(079)552-5237	(079)552-6222	669-2300	丹波篠山市沢田120-1
38	肢体不自由	尼崎市立あまよう特別支援学校	小中高	(06)6482-1530	(06)6482-1531	660-0892	尼崎市東難波長2丁目14番40号
39		西宮市立西宮支援学校	小中高	(0798)23-3014	(0798)23-3017	663-8161	西宮市甲子園春風町2-29
40		伊丹市立伊丹特別支援学校	小中高	(072)783-5436	(072)783-5477	664-0006	伊丹市鴻池1丁目8-6
41		宝塚市立たからづか支援学校	小中高	(0797)84-0953	(0797)81-0847	665-0822	宝塚市安倉中6丁目1-3
42		川西市立川西養護学校	小中高	(072)799-1456	(072)799-5413	666-0143	川西市清和台西2丁目3-81
43		三田市立ひまわり特別支援学校	小	(079)562-8667	(079)562-8661	669-1547	三田市富士が丘1丁目12番地
			中高	(079)562-7667	(079)562-7668	669-1547	三田市富士が丘3丁目25番地
44		明石市立明石養護学校	小中高	(078)918-5935	(078)918-5936	674-0051	明石市大久保町大窪2752-1
45		加古川市立加古川養護学校	幼小中高	(079)428-2645	(079)428-2577	675-1214	加古川市上荘町見土呂34-1
46	知病	兵庫県立上野ヶ原特別支援学校	小中高	(079)563-3434	(079)563-5379	669-1515	三田市大原梅の木1546-6
		ひかりの森分教室【病】	小中	(078)581-8620	(078)581-8621	651-1242	神戸市北区山田町上谷上字登り尾3
		さくら訪問学級【病】		(079)568-5336	(079)568-5336	669-1357	三田市東本庄1188
47	肢病	姫路市立書写養護学校【肢】	小中高	(079)266-0028	(079)266-9506	671-2203	姫路市書写台3丁目148-1
		uluの木分教室【病】	小中	(079)297-7600	(079)297-7600	670-0061	姫路市西今宿5丁目3-8
48	知肢病	兵庫県立のじぎく特別支援学校【知肢】	小中高	(078)994-0196	(078)994-0197	651-2215	神戸市西区北山台2丁目566-134
		おおぞら分教室【肢】	幼小中	(078)926-1811	(078)926-1833	651-2181	神戸市西区曙町1070 ※訪問学級は病弱対象、連絡は本校へ
49		神戸市立友生支援学校	幼小中高	(078)576-6120	(078)576-6061	652-0063	神戸市兵庫区夢野町1-1
		みなと分教室【病】	小中	(078)381-5366	(078)381-5366	650-0047	神戸市中央区港島南町1-6-7